令和４年度文部科学省
「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」〈二年目〉

瀬戸市における民間団体との協働による障害者生涯学習プログラムの開発

報告集

令和５年３月

ＮＰＯ法人　杏　・　瀬戸市

令和四年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」〈二年目〉　報告集
ＮＰＯ法人　杏　・　瀬戸市
令和五年三月

ごあいさつ

NPO 法人　杏

理事長　相馬　貴久

文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」も 2 年目を終えることになりました。

今年度は瀬戸市とともに協働し障害者の生涯学習について公民館等地域社会施設をはじめ民間団体とも組織的に連携することができ、障害当事者のニーズを推進できるよう地域資源を有効利用することを課題として生涯学習プログラムを開発実施し成果の普及に努めることができました。

公民館等の地域社会施設と連携した連続講座では乳幼児期から成人の障害福祉の理解を深め、昨年から実施してきたボッチャ大会を瀬戸市の障害福祉のイベント等にも組み込みさらに多様な活動につなげる足掛かりとしました。

この間、親身にご助言をいただいた文部科学省障害者学習支援推進室のみなさま、ご多忙の中会議や視察研修、各事業に積極的にご参加いただいた連携協議会委員のみなさま、また事業の運営に携わっていただいた、公民館や障害福祉事業所、さくらんぼサポートステーション、瀬戸ロータリークラブ、瀬戸特別支援学校のみなさま、最後に多忙な業務に加え、各事業の実施にご協力いただいたみなさまに心から感謝申し上げます。

瀬戸市で障害者や生涯学習にかかわるみなさまがこの事業についてさらに理解を深め、ご自身がかかわる立場で少しでも障害者の生涯学習について考えるきっかけになれば幸いです。

そして本事業が瀬戸市で継続・発展し障害者の方の多様な「学び」の機会を充実させていくことができるよう、皆様のご理解ご支援を、どうかよろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ

瀬戸市長　伊藤　保德

瀬戸市では、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」委託事業を、令和 3 年度から NPO 法人・杏と協働し、実施してまいりました。全国で行われている本事業は、昨年度の 18 団体から 28 団体に広がりを見せています。

今年度においては、地域における生涯学習の核となる公民館関係者を交えた連続講座や、「まっとつながろ祭」とコラボして行われたボッチャ大会等を通じて、地域の方々や学生ボランティアが障害者との交流を深めることができました。また、リモートによる参加を可能としたコンファレンスにおいて、本事業に賛同してくださる全国の方々からのご意見を聞くことができました。本事業が広がっていく中で、「人と人とのつながり」が生まれていることを実感しております。

障害のある方々が生涯にわたり自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるようにという願いを実現する土台には、「人と人とのつながり」を欠かすことはできません。

本市といたしましては、引き続き、誰もが学びたいときにいつでも学べる社会、障害の有無に関わらず共に学び生きる共生社会の実現を市民、関係者の皆様とともに目指してまいります。

本事業を実施するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

目 次

あいさつ …… 1

目次 …… 3

1. 事業計画 …… 5

2. 事業実施日程一覧 …… 13

3. 連携協議会 …… 15

4. 学習プログラムの開発 …… 27

Ⅰ 障害者生涯学習連続講座 …… 29

Ⅱ ボッチャ大会 …… 37

Ⅲ 視察研修 …… 61

5. コンファレンス事業 …… 67

Ⅰ コンファレンス …… 69

Ⅱ アンケート調査 …… 92

6. 総括 …… 96

編集後記 …… 98

1. 事業計画

事業の題名：「瀬戸市における民間団体との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

NPO法人杏は令和３年２月８日文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習･安全課発令の、令和３年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業「（１）地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究（イ）地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」公募要領に基づき、瀬戸市と協働で、事業名を「瀬戸市における民間団体との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」とし実践研究を応募した。令和４年度においても事業２年目として応募し、全国２８団体の１つに採択され、二年目の事業を進めてきた。

以下、文部科学省に提出・採択された「企画提案書」より本実践研究の事業計画を紹介する。

１．効果的な学習プログラムの実施

本プログラムのねらいは、前年度に引き続き、ボッチャを活用し、学校卒業後も障害者が活動する機会を提供するとともに、地域住民が障害者と一緒に活動できる場の整備、そしてその先に学校卒業後の障害者が公民館等を拠点とした生涯学習で学び続けることができる地域づくりを目標としてボッチャ講習会(7 月)の開催、ボッチャ大会の企画運営協力と障害者チームの参加(10月)に取り組む。

また、前年度のアンケート結果から、公民館をはじめとした地域で、本事業の趣旨と瀬戸市の障害児・者教育、福祉について学ぶ機会を設ける必要があることが分かった。そのため公民館職員や住民対象に市内の特別支援学校や障害者福祉事業所等を実際に見学しながら学ぶ連続講座(5回)を実施する。

それぞれの内容は以下のとおりである。

◇ボッチャ講習会(7 月)

10 月開催のボッチャ大会に先立ち、公民館などの地域、障害青年や支援者向けにボッチャ講習会を開催する。前年度はコロナ禍の対策として地域と人数を限定(障害福祉事業所や公民館職員各３カ所) して実施したが、今年度は感染拡大防止に配慮しつつより多くの障害者、公民館職員らが参加できるよう、市内で最も広い会場の体育館で実施する。前回参加した障害福祉事業所に加えてさらに３カ所程度の事業所に呼びかけ、市内全公民館にも働きかける。受託決定後早期の段階で、前年度の本事業でのボッチャ講習会の様子や今年度学習プログラムへの参加呼びかけを動画やチラシ等を用いて行い、同時に文部科学省『わかりやすい版だれでもいつでも学べる社会へ』リーフレットに本事業担当窓口へのアクセス(QR コード、問い合わせ先など)を記入して配布する。

講習内容は前年度を参考に、ボッチャ協会講師に指導を依頼する。ボッチャの歴史、パラリンピック等国際的な障害者スポーツとして取り組まれていることなど協議についての知識を広げ、参加者全員がボールに触れミニゲーム形式でルールを学びながらボッチャの楽しさを体感できるようにする。さらに、昨年度ボッチャ競技審判養成研修会を受講した市内障害福祉事業所職員も、本講習会に携わってもらう。

講習の最後にボッチャ大会の告知をすることで 10 月の大会に向けて参加したい意欲を膨らませ、地域・事業所等を単位とした練習機会の設置に働きかける。また、参加者へのアンケートを

実施して障害者本人のボッチャ以外の興味関心や学習要求を汲み取ることにも努め、公民館を始めとした地域での障害者の生涯学習の場づくりにつなげていく。

◇ボッチャ大会(10 月)

瀬戸ボッチャクラブ（瀬戸市立瀬戸特別支援学校が瀬戸市教育委員会の未来創造事業の一環として行ってきたボッチャ大会を継承し、発展させていくために設立された団体）が毎年開催しているボッチャ大会（主な障害種：肢体不自由）に 7 月のボッチャ講習会に参加した障害者、福祉事業所等を中心に数チームが参加し競技する。

今年度より本科事業受託者の NPO 法人杏を中心とした福祉事業所（主な障害種：知的・精神）が瀬戸ボッチャクラブとともに企画運営に関わることとなり、今後は学校と福祉事業所がより一層繋がることで、卒業後の生涯学習につながる連携体制の構築が期待できる。大会には市内小・中・高等学校も参加するため、障害のない児童・生徒、教員、保護者らとの交流の機会となる。また前年度に続いて公民館職員にもボランティア参加を求め、大会運営のノウハウや障害者への直接的な関り方を学びながら、事業終了後も各公民館を拠点に障害者のボッチャチームが複数活動し、そのチームが対抗するボッチャ大会を開催できるようなビジョンを共に描いて取り組んでいく。

◇障害者生涯学習連続講座(6 月～12 月・全 5 回の連続講座)

前年度の事業において、公民館職員等が障害者に接する機会が少ないことで、接し方に不安を抱えていることや、学ぶ機会がほしいといったニーズが把握できたため、今年度は新た連続講座(5 回)を開催する。対象は、公民館職員や地域住民などとし、講座のプログラムは、各回講師を招いて、文部科学省が進める政策・本委託事業を NPO 法人杏と瀬戸市が応募した経緯をはじめ、瀬戸市の障害児・者制作の現状などを内容に取り入れ講義を実施する。また、障害者の学校卒業後の課題を理解するために、乳幼児期から学校期（小中高)、青年・成人期（卒業後）までの各ライフステージに沿った、一生涯を通しての育ちと学びについて取り上げる。学習スタイルは単なる講義ではなく、実際に福祉事業所や学校等の見学をしながら実施し、参加者間でのグループ討議などを取り入れ主体的な学習が進むよう企画する。各回の司会者は現在瀬戸市の教育・福祉に実際に携わる者が担当し、単なる進行役に留まらず、講義内容では不足する地域の社会資源の情報を補足して参加者に提供していく。

◇コンファレンスでの障害者自身による成果報告(1 月)

学習の主体者である障害青年自身が学びを通して得られた成果を自らの言葉で発信し、他者からの評価を受けることでさらなる活動意欲の増進、自信の獲得につなげることをねらいコンファレンス内での成果報告に参加する。

上記の生涯学習プログラムには、瀬戸市立瀬戸特別支援学校地域学校協働活動推進員（以下「さくらんぼサポートステーション」）も関わり、地域ボランティアの窓口となって障害者生涯学習を支援するボランティアの募集・育成等の面から連携していく。

生涯学習プログラムの成果については、各プログラム開催時にアンケートや聞き取り調査を実施し、半構造化方式による質的調査方法をもとに数値目標を設定し分析・検証を行い評価する。

コロナ禍での事業実施にあたっては、県の新型コロナウイルス感染症対策施策を準拠し、一般社団法人日本ボッチャ協会「新型コロナウイルス感染症に伴うボッチャ活動再開指針」等を参考に、感染拡大防止対策をとったうえで原則対面での開催を計画するとともに、感染拡大状況に応じてオンラインによる代替プログラム（ボッチャ学習会、実技指導、参加者交流等）、学習プログラムの活動の様子を動画配信するなどを実施できるよう準備を進める。(連携協議会の開催、視察研修、コンファレンス開催についても同様に取り組む。)

２．連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局・民間団体等との連携体制の構築

(1) 連携協議会の議題

連携協議会は年３回開催することとし、以下のように議題を設定した。

第１回　事業の趣旨と年間活動計画、自己紹介、事業日程、役割分担、連続講座、視察日程等

第２回　ボッチャ大会準備、視察研修の日程・参加者、ボッチャ大会、コンファレンスに向けた課題

第３回　事業のまとめ、報告書の編集と執筆依頼、来年度事業実施について

※新型コロナウイルス感染拡大防止策をとったうえで、対面での開催を原則とし、状況に応じてオンラインとのハイブリッド方式で行う。

(2) 実施体制・連携体制

連携協議会委員のメンバーは、行政からは障害者の生涯学習に関係する４つの課と大学を含む地域の教育、福祉、医療などの民間団体の代表によって構成する。瀬戸市には、これまで幼児期から学校卒業までの障害児の療育、保育、学校を一貫させて支援するために行政が連携し専門家を配置した「発達支援室」の取り組みがあり、また、公私の保育士や幼稚園教諭、小中学校、特別支援学校教員を対象に市と大学とが連携した「特別支援教育リーダー養成講座」が開設されてきたように行政機関の連携や行政と民間団体との連携協働を進めてきた歴史がある。しかし、これまでは、乳幼児期から、小中学校までの関係止まりであった。今回、障害者の生涯学習支援事業に取り組むことによって、障害者の学校卒業後に関わる行政内の横の連携をはじめ、公民館や自立支援委員会、障害者福祉事業所など行政と民間団体との連携の広がりと協働の必要が出てきた。学校教育においても、瀬戸市には肢体不自由児の市立特別支援学校と知的障害児の県立特別支援学校があるが、いずれも卒業後の支援は限られるとともに、市内の小中学校や地域との繋がりも弱かったと言える。

連携協議会委員にはこの事業に関わることを通して行政と民間団体が、教育と福祉が、学校と福祉事業所が、よりいっそう縦横につながり、地域における障害者の生涯にわたる支援体制の構築に各分野で指導的役割を発揮することが期待される。

(3) 事業の成果と発展

「ボッチャ大会」は、昨年度に引き続き、特別支援学校を含むコミュニティ・スクールを活性化させる新たな取り組みとして、学校卒業後の障害者、特別支援学校（卒業生を含む）児童生徒と教職員、小中高の児童生徒と教職員、社会福祉協議会、公民館、近隣の大学や高等学校、自治会、地域住民とが一緒に取り組むなかで、お互いを理解し共生社会をつくっていく貴重な機会として本事業の中核に位置付けて取り組む。そして、ボッチャを通しての学びの場づくりを通して、学

校卒業後の障害者の生涯学習支援に関わるボランティアの育成を図る。
本年度は、さらに公民館等の社会教育施設毎に、より身近な地域でボッチャに取り組めるように、関係機関の職員と打ち合わせを密にし、そのなかで、障害者青年学級や障害者対象の一般教養講座などの実施に向けて、どのような環境・指導者・支援者・広報の方法が必要かという視点での検討を深めていく。
「障害者生涯学習連続講座」では、地域で取り組まれている、障害児・者の保育・療育、学校、障害者福祉事業所の教育福祉について乳幼児期、学齢期、卒業後の生涯を通して通した学び・発達の現状について理解し、今後さらに学校卒卒業後も継続し、生涯にわたる学び支援の必要や課題を明らかにする。受講者は、公民館職員、障害者福祉事業所職員、市の関係職員、学生などのボランティアを対象とする。講師の話だけでなく、各分野における地域の全体状況を把握している人を司会者に配置し、また、講師、司会、受講生の三者を繋ぐ連続講座のコーディネーターを配置することによって、グループワークにおけるディスカッションを活発化し、地域における障害者のライフ状況についての理解を深め、文部科学省の障害者生涯学習化政策の理念を共有し、学校卒業後の障害者が地域社会で自立して生きるために必要な力を生涯にわたって維持・開発・伸長するための課題と展望について検討する。
「視察研修」では、今後瀬戸市の公民館等社会教育施設で障害者の生涯学習を企画・実施できるように、全国の先進的な取り組みについて学ぶことをねらいとし、奈良市の「ジョイアスクールつなぎ」、長年にわたって名古屋市教育委員会委託事業である「障害者青年学級」に取り組んできている「汽車ぽっぽ」を訪問する。視察訪問にあたっては事前情報から自分なりの考えをもって参加し、実際に見聞する中で、その考え方、方法、環境、成り立ちについて学び、今後、瀬戸市でそれをどう活かせるかについて参加者で意見を出し合い検討し、それらを連携協議会やコンファレンスで発表・論議し、広く共有を図ることとする。このような視察研修を通して、今後、連携協議会委員をはじめ関係者、市民が自らの職場や地域で、障害者生涯学習支援に反映させて関わっていくことが期待される。

（3）コーディネーターの活動やボランティアの育成・活用等の方策
コーディネーターは、前年度事務局を担っていた池田有希を配置する。
瀬戸市には、他市にはない「瀬戸市特別支援教育リーダー養成講座」が開催されている。2013年度より、愛知県立大学生涯発達研究所・瀬戸市教育委員会・瀬戸市発達支援室による「特別支援教育リーダー養成プログラム開発研究会」主催で実施されているものである。受講生は、校長や園長の推薦を受け、年間７～8 回の講座を２年間（当初３年間）受講することによって、修了書が授与される。その後、受講生は、市特別支援教育のリーダーとして、要所に配置される。本コーディネーターは、中学校特別支援学級の教員としてリーダー養成講座の第１期修了生であり、2018 年度より瀬戸市教育委員会の特別支援教育専門員・指導主事を務めている。また、同年より、文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の委託を受けた、「NPO 法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会」の連携協議会委員を３年間務めた。そして、これらの経験をもとに 2021 年度からは、瀬戸市において文部科学省による同委託事業の企画・実施において、その中心的役割を担い、事務局員を務めている。また、瀬戸市における障害児支援の特徴は、幼少期から一貫した支援に関わる市「発達相談室」と小・中学校の通常学級・特別支援学級、市立特別支援学校、卒業後の障害者福祉事業所との連携・協働が緊密なことである。これらをコーディネートしているのが特別支援教育担当指導主事である。

本事業では、ボッチャを通しての学びの場づくりの事業を中核としているが、この事業は「小学校・中学校・特別支援学校協働型コミュニティ・スクール（学校運営協議会・地域学校協働本部）」を土台とし、主催は文部科学省・瀬戸市教育委員会である。このように、本コーディネーターは、瀬戸市教育委員会に所属し、特別支援教育専門指導主事としてはもちろん、文部科学省の障害者の学校卒業後の学び支援政策に精通しており、コーディネーターとして適任である。

＜ボランティアの育成・活用に関して＞

本事業の中核であるボッチャを通しての学びの場づくりとして、特別支援学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会・地域学校協働本部）と連携して、ボッチャ大会とそれに向けた取り組みを行う。ここでは、学校教職員、障害福祉事業所職員、公民館職員、障害者親の会、地域住民などに地域ボランティアとしての参加と運営への関わりを広く呼びかける。

このように、ボッチャ大会とそれに向けた取り組みは、それ自体、参加者全体が、学校卒業後の障害者の生涯学習支援のボランティア対象者であり、ボランティア育成の学びの場である。このように、ボッチャの取り組みをきっかけに、地域共生社会づくりの一環としてのボランティアの育成を図っていきたい。

４月	
５月	さくらんぼサポートステーションと連携して、ボッチャ講習会や大会、障害者生涯学習連続講座を周知。参加、運営、地域ボランティア募集について準備。
６月	さくらんぼサポートステーションが窓口となり、地域ボランティアを募集。 障害者生涯学習連続講座①(地域ボランティアも参加)
７月	ボッチャ講習会(地域ボランティアも参加)
８月	障害者生涯学習連続講座②(地域ボランティアも参加)
９月	
１０月	ボッチャ大会(地域ボランティアも参加) 障害者生涯学習連続講座③(地域ボランティアも参加)
１１月	障害者生涯学習連続講座④(地域ボランティアも参加)
１２月	
１月	コンファレンス(地域ボランティアも参加) 障害者生涯学習連続講座⑤(地域ボランティアも参加)
２月	

（資料：コーディネーター・指導者等の配置やボランティアの育成・活用等のスケジュール）

（４）実践研究の成果等の普及

成果等の普及について次のように設定した。

(1) SNS・インターネット等での事業周知(随時)

NPO 法人杏 Facebook、瀬戸市 HP、まちづくり協働課インスタグラム、ラジオサンキューブログなど、事務局員等が所属する各機関から本事業の告知や成果等を随時発信。写真や動画を活用し、分かりやすくタイムリーな情報提供を広範囲に行う。また、連携団体の HP 等に本事業のリンク先を掲載するなど、事務局以外からの情報発信の拡がりに働きかける。

(2) ラジオサンキュー「尾張東部放送」・ケーブルテレビ・新聞社協力での告知や周知など(取材・放送)

市民や連携団体以外への情報発信を目的に積極的にメディア等の活用に働きかける。

(3) コンファレンス

前半は、１年間の事業についての成果報告会とする。今年度は犬山市も共催として加わる。主な内容は以下の通り。

①犬山市が事業成果を報告。
②生涯学習の実施先である公民館長に対し、本委託事業の経緯や目的、将来展望を講義する。（全公民館長 14 名参加）
③障害者本人がボッチャ大会の感想等を発表する。
④ボッチャ大会実施に関わった実施主体法人、瀬戸市、連携協議会委員、事業所職員、ボランティア等支援者、ボッチャ指導者、保護者等から本事業に参加した意見等を求め、次年度以降の課題と展望を共有する。

後半は、今後、瀬戸市で障害者生涯学習を進めていくために、各分野の有識者が話し合うことによって、現状と課題を明らかにし、共有を図る座談会とする。

コンファレンスは、連携協議会委員、ボッチャ大会、講座受講生の参加者はじめ、広く市民を対象とし、また、全国に向けて、対面を基本にインターネットによるハイブリッド方式で開催する。

(4) 報告集発行

本委託事業の目的や、事業の様子、参加した障害者本人の感想要望などを掲載した報告集(冊子・電子媒体)を発行する。

報告集の配布を通して本委託事業と障害者の生涯学習について普及啓発をし、委託事業終了後も行政や地域が活動に取り組めるようにする。

７．本実践研究事業の実施により得られることが見込まれる成果・効果

（自立や社会参加・就労等に関する具体的なエビデンスに基づく成果・効果、本委託事業終了後の成果の活用方針・手法等）

（１）事業の実施により直接的に得たい成果／アウトプット目標

ボッチャ講習会やボッチャ大会の開催

・障害者が学校卒業後も学ぶ場があること知る。
・障害者が学校卒業後も「学ぶことが自分を豊かにする」ことを感じ取り、学習の主体者として積極的に生きていく力の獲得につながる。
・障害者福祉事業所の支援者が障害者の生涯学習について知り、積極的に関わろうとする。
・障害者自身が活躍できる場を設け、新たな趣味の獲得や、ボッチャ経験を通じてスポーツや文化的活動への意欲を引き出す。
・瀬戸市内の障害者福祉事業所の横のつながりができる。
・障害者を含めた地域住民が多様な人（同世代、異年齢、健常者、障害者等）とのつながりや学習活動を通して共生社会の活動に参画する。
・瀬戸ボッチャクラブの運営や活動に多くの地域住民を含めた社会資源が関わることで、障害者への支援、活動の運営方法等を学ぶ。
・障害者、地域住民、公民館等社会教育施設関係者へのアンケートを実施し、効果の推移や変化を検証する。

⇒市内福祉事業所の参加数について、学習プログラムへは計 6 カ所（前年度 3 カ所)、コンファレンスへの出席を計 10 カ所（前年度 2 カ所）への増加を目指す。

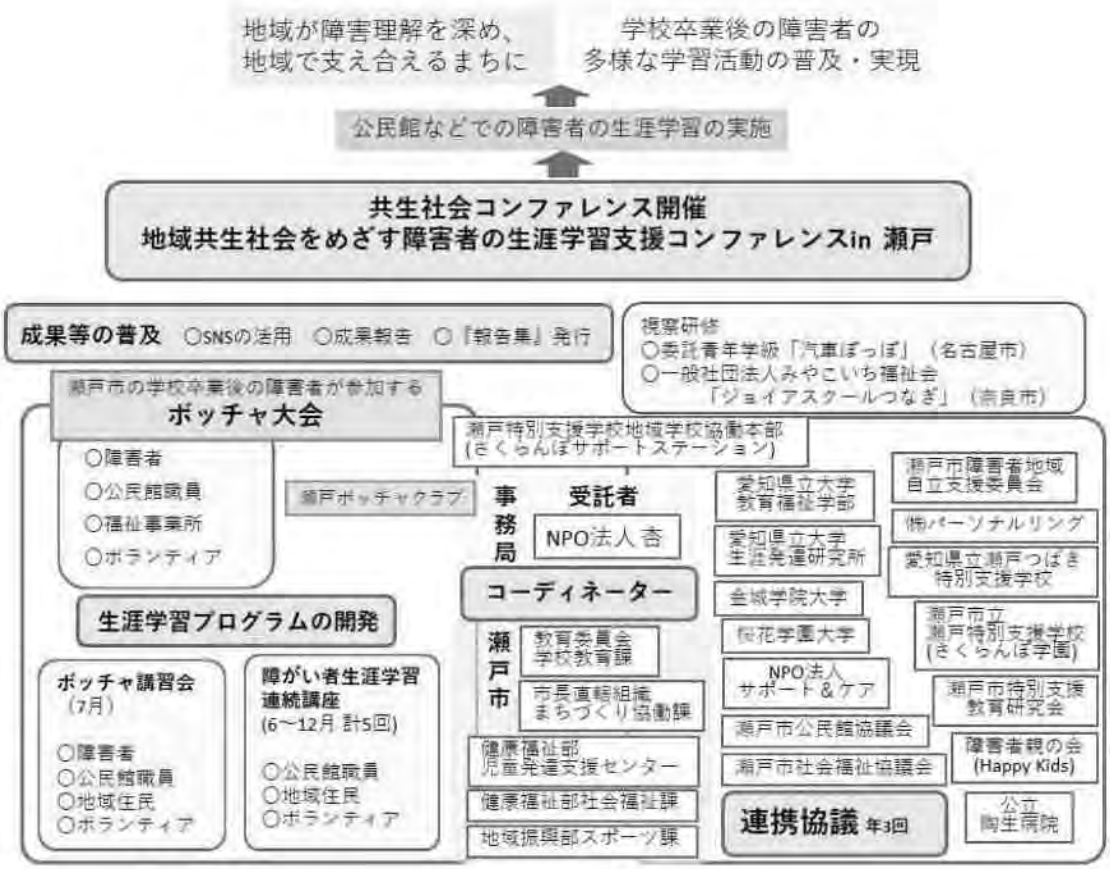
⇒地域ボランティアの参加を 10 人目指す。

障害者生涯学習連続講座の開催

・公民館等社会教育施設の職員や地域住民が、障害者の生涯学習について知り、地域で支えてい

こうとする意欲を高める。
・公民館等社会教育施設の職員や地域住民が、瀬戸市の障害者福祉について知り、障害者がどこでどう学び育ってきているのかの知識や理解を得ることができる。
・障害者本人が活動する場面や支援環境を目で見て知ってもらうことで、それぞれの立場における障害者の学習に適した環境整備につながる。
・障害者、地域住民、公民館等社会教育施設関係者へアンケートを実施し、効果の推移や変化を検証する。
⇒市内公民館 14 箇所のうち、障害者生涯学習連続講座への参加を 7 箇所、職員 14 人の参加を目指す。（今年度新規の取り組みのため前年度比なし）
（２）事業の実施により終了後（中長期的）に得たい成果／アウトカム目標
・効果や課題を抽出・分析し、次期取り組みに活かす。
・障害者の意見や希望を考慮した事業展開を検討し、次期に繋げる。
・成果報告を含めた事業の周知を広域的に行い、連携・協働できる団体等を発掘する。
・連携協議会構成員とともに地域に向けて本事業の重要性を発信し、地域が主体となって取り組むことができる仕組みを創設する。
・事業参加者が障害者への理解を深め、障害者生涯学習支援に関して所属する立場でどのような取り組みができるか考え、実行する。
（３）本委託事業終了後、事業実施により得られた成果をどのように活用することを検討しているのか。またその見通しについて、具体的に記載すること。
地域に暮らす障害者を中心にした障害者福祉事業所、学校、公民館等の連携・協力が強まり、障害者生涯学習を具体的に実施することに成果をつなげる。
障害者スポーツとしてはもちろん､健常者も共に参加しやすいボッチャを普及することにより、事業終了後に各公民館において地域在住の障害者、障害者福祉事業所、ボランティアによる生涯学習講座としてボッチャ講座が開催される。その活動を拠点として公民館単位でのボッチャクラブが誕生し、継続的にボッチャの練習や交流が進む。一方で、ボッチャ協会と障害者福祉事業所等が連携することにより大会運営についてのノウハウを学び、近い将来公民館ボッチャクラブ対抗の単独の大会を実現させるような展望につなげていく。
さらにこうした活動を通して障害者自身が例えばボッチャクラブの練習や運営において主体的な役割を担うことも期待できる。
また、事業実施を通してつながった連携、政策への理解を活かして、個人、団体、大学、企業など地域全体で学校卒業後の障害者を生涯学習の視点から支える仕組みづくりを検討していく。そこでは障害者本人が意見や希望を述べ、本人が望む分野の講座の開設、学びの場の創出が地域の人的物的資源を活用することにより実現できるようなシステムを目指す。
このように障害者が学校卒業後、企業・福祉事業所等と自宅の行き来だけでなく、地域に開かれた様々な居場所での学びが当たり前に生活の一部となるような、福祉(生活・就労)、医療(健康)に続く生涯学習を提供できる地域づくりを将来像とする。

【資料：企画提案書添付の事業全体像図】



２.事業実施日程一覧

	連携協議会と視察研修	事業	事務局会議	成果報告等
５月			事務局準備会(24 日)	
６月	第 1 回連携協議会(17 日)	障害者生涯学習連続講座①(24 日)	第 1 回事務局会議(22 日)	
７月		ボッチャ講習会(23 日)	第 2 回事務局会議(11 日)	
８月		障害者生涯学習連続講座②(23 日)	第 3 回事務局会議(18 日)	
９月	第 2 回連携協議会(27 日)		第 4 回事務局会議(16 日)	
10 月	委託青年学級「汽車ぽっぽ」視察研修(16 日)	障害者生涯学習連続講座③(19 日)	第 5 回事務局会議(11 日)	
11 月	ジョイアスクールつなぎ視察研修(6～7 日)	障害者生涯学習連続講座④(18 日) ボッチャ大会(23 日)	第 6 回事務局会議(10 日) 第 7 回事務局会議(30 日)	ラジオサンキュー「尾張東部放送」での事業周知(14 日)
12 月		障害者生涯学習連続講座⑤(１日)		
１月			第 8 回事務局会議(6 日) 第 9 回事務局会議(31 日)	地域共生社会をめざす障害者の生涯学習支援コンファレンス in 瀬戸(14 日)
２月	第 3 回連携協議会(８日)		第 10 回事務局会議(13 日) 第 11 回事務局会議(20 日)	
３月			第 12 回事務局会議(1 日)	報告集発行

３. 連携協議会

令和４年度　文部科学省実践研究委託事業　連携協議会委員一覧

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
池田　有希	瀬戸市立效範小学校　教務主任	コーディネーター
稲垣　宏和	瀬戸市健康福祉部社会福祉課　課長	
犬飼　保夫	愛知県立瀬戸つばき特別支援学校　校長	
宇都宮　みのり	瀬戸市障害者地域自立支援委員会　委員長	愛知県立大学教育福祉学部　教授
小川　純子	金城学院大学・桜花学園大学　非常勤講師	県立特別支援学校元校長
加藤　英子	公立陶生病院　小児科部長	
加藤　和守	瀬戸市公民館協議会　会長	
加藤　孝介	瀬戸市社会福祉協議会　事務局長	
川上　雅也	ＮＰＯ法人サポート＆ケア　理事長	
此下　明雄	瀬戸市教育委員会　学校教育課　課長	
杉江　圭司	瀬戸市市長直轄組織まちづくり協働課　課長	
田中　良三	愛知県立大学名誉教授、名古屋大学非常勤講師 文部科学省有識者会議委員	全国障がい者生涯学習支援研究会会長
中島　史恵	瀬戸市健康福祉部児童発達支援センター長	
中村　浩司	瀬戸市地域振興部スポーツ課　課長	
林　ともみ	株式会社パーソナルリング　取締役 ＭＣ＆パーソナリティ	（副委員長）
福田　致代	Happy kids 代表	障害者親の会
藤井　奈保	瀬戸市特別支援教育研究会　会長	瀬戸市立幡山東小学校校長
牧　治	瀬戸市立瀬戸特別支援学校　地域学校協働本部長	
松川　博茂	瀬戸市立瀬戸特別支援学校　校長	
三山　岳	愛知県立大学 生涯発達研究所　所長	愛知県立大学教育福祉学部　准教授
山本　理絵	愛知県立大学　教育福祉学部長	（委員長）

文部科学省委託事業・NPO 法人杏連携協議会 規約

第１条（名称）

この会は、文部科学省委託事業・NPO 法人杏連携協議会という。

第２条（目的）

この会は、文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業『地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進』」をするための趣旨に基づいて設置し、NPO 法人杏の委託事業を円滑に推進することを目的とする。

第３条（活動）

この会は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

① 瀬戸市において、障害者の生涯学習について民間団体等と組織的に連携し、公民館等の社会教育施設をはじめ関係機関において、障害当事者のニーズや地域資源を踏まえた「生涯学習プログラム」を開発・実施し、その成果の普及・活用を目指す本事業全体にわたる進行管理を行う。

② 本事業において、障害者の自立や社会参加・就労等に関わる具体的なデータ・調査結果・事例等のエビデンスに基づく事業成果の分析・検証等を行い、成果報告書としてとりまとめる。

③ 効果的な検討に資する観点から、協議会の構成員は、先進的な優良事例を視察する。

④ 連携協議会を、年間３回程度開催する。

第４条（構成員）

１．本会は、委員と事務局員から構成する。

２．委員は、本事業に関係する、瀬戸市の関係部局、特別支援学校・大学等学校及び福祉・労働・医療団体等の関係者によって構成する。

３．事務局員は、NPO 法人杏の職員および本事業の関係者によって構成し、実務を担う。

第５条（財政）

委員会出席や視察研修参加等については、謝金及び交通費等を支払うものとする。

第６条（事務所）

会の事務所は、NPO 法人杏（〒489-0005 愛知県瀬戸市中水野町１丁目 444 TEL/FAX 0561-76-8004）に置く。

第７条（附則）

１．この規約は 2021 年６月 10 日より施行する。

２．この規約は 2022 年６月 17 日より施行する。

文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」（２年目）

第１回連携協議会　次第

令和４年６月１７日(金)
１０：００～１２：００
場所：デジタルリサーチパークセンター
マルチメディア電子会議室および ZOOM

１　はじめに
本委託事業の経緯と連携協議会委員の役割

２　議 事
（１）連携協議会規約の改正
（２）令和４年度（２年目）の事業計画
（３）今後の日程
（４）その他

３　配布資料
資料１　文部科学省の障害者生涯学習支援推進政策
資料２　連携協議会委員の役割
資料３　連携協議会委員等一覧
資料４　連携協議会規約（案）
資料５　企画提案書（令和４年度）
資料６　令和４年度スケジュール

2022年度
文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」
第１回 瀬戸市連携協議会　記録

日 時	2022年 6月17日(金)　10:00～12:00		
会 場	デジタルリサーチパークセンター マルチメディア電子会議室		
出席者（敬称略） 委員　16名 事務局　9名	委員長　山本 理絵	副委員長　林 ともみ	委　員　稲垣 宏和
	委　員　川上 雅也	委　員　小川 純子	委　員　田中 良三
	委　員　中島 史恵	委　員　此下 明雄	委　員　福田 致代
	委　員　藤井 奈保	委　員　杉江 圭司	委　員　加藤 英子
	委　員　牧　治	委　員　中村 浩司	委　員　加藤 孝介
	委　員　加藤 和守		
	事務局長　相馬 貴久	事務局次長　藪 一之	事務局員　川地 里香
	事務局員　羽間 弘美	事務局員　西山 京子	事務局員　加藤 由美子
	事務局員　藤本 竜弘	事務局員　藤掛 順子	事務局員　舩坂 礼子
欠席者（敬称略） 委員　4名 事務局　1名	委　員　犬飼 保夫	委　員　宇都宮みのり	委　員　松川 博茂
	委　員　三山 岳		
	事務局員 池田 有希		
傍聴者等	無し		
開会時刻	10:00	閉会時刻　12:00	

議　事

（司会進行：川地里香事務局員）

○ 新委員の紹介

加藤 和守委員（瀬戸市公民館協議会 会長）

加藤 孝介委員（瀬戸市社会福祉協議会 事務局長）

中村 浩司委員（瀬戸市地域振興部スポーツ課 課長）

○ 欠席者の確認

５名欠席（犬飼委員、宇都宮委員、松川委員、三山委員、池田事務局員）

○ 配布資料の確認

＜ 相馬貴久事務局長＞　二年目の取り組みについて、協力を求めるあいさつがあった。

○各委員及び事務局員の自己紹介

１ はじめに

＜事務局：愛知県立大学 田中良三氏＞ 本事業の経緯と連携協議会委員の役割の説明があった。

＜議事進行：本会議委員長 愛知県立大学教育福祉学部長 山本理絵氏＞

１ 議事

議題（１）の「連携協議会規約の改正」について説明

＜川地里香事務局員＞ (資料４参照)

資料４「文部科学省委託事業 ・NPO法人杏連携協議会 規約」の改正

資料5企画提案書を基に説明 ・R3年度の活動報告 ・R4年度の計画予定

<田中良三委員・事務局員>※補足説明

R4年度実施内容について、スケジュール（資料6）を基に補足説明があった。

<加藤和守委員>

公民館協議会としての取り組みについて情報提供があった。

<小川純子委員>

視察研修や連続講座の効果的な内容について意見があった。

<田中良三委員・事務局員>

資料「障害者の生涯学習の推進に向けて関係機関に期待される取組」の資料から、内容を紹介した。

<加藤孝介委員>

社会福祉協議会では、連区ごとに地区社協がありボッチャに関して意欲的であることが伝えられた。

<牧 治委員>

障害者の生涯学習事業を続けていただけるのは、当事者としてはありがたいことで感謝している

<藤井奈保委員>

様々な取り組みの、保護者への周知の必要性について意見があった。

<福田致代委員>

ボッチャ以外の要素を検討していくことについて意見があった。

<林ともみ委員>

公民館の協力により、連続講座をライフステージに合わせて実施することの提案があった。

<川地里香事務局員>

（3）今後の日程について説明があった。

〇資料：「障害者の生涯学習の推進に向けて 関係機関に期待される取組」の資料紹介

<加藤英子委員>

医療関係者として、感染対策等に配慮し、関係者の健康に留意した運営を推奨する旨の意見があった。

<藪 一之事務局次長>

昨年度のボッチャを継続する中で、様々な障害のある方のニーズに応えられるいろいろな生涯学習の形を瀬戸の町で実現していく。本日の意見を組み入れながら取り組みを次年度につなげていく。　　以上

文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」（２年目）

第２回連携協議会　次第

令和４年９月２７日(火)
１０：００～１２：００
場所：デジタルリサーチパークセンター
マルチメディア電子会議室および ZOOM

１　議 事
（１）連携協議会規約の改正
（２）報告事項
・ボッチャ講習会
・連続講座
（３）ボッチャ大会
（４）視察研修とコンファレンス
（５）その他

２　配布資料
資料１　連携協議会規
資料２　ボッチャ講習会アンケート結果
資料３　視察研修
資料４　コンファレンス
資料５　令和４年度（２年目）スケジュール
資料６　第１回連携協議会議事録
※参考資料　障害者生涯学習連続講座プログラム集
※参考資料　障害を理解するためのハンドブック

2022 年度
文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」
第2回 瀬戸市連携協議会　記録

日 時	2022 年 9月27 日(水)　10:00～12:00		
会 場	デジタルリサーチパークセンター マルチメディア電子会議室		
出席者（敬称略） 委員　15名 事務局　9 名	委員長　山本 理絵	副委員長　林 ともみ	委　員　稲垣 宏和
	委　員　松川 博茂	委　員　小川 純子	委　員　田中 良三
	委　員　犬飼 保夫	委　員　此下 明雄	委　員　福田 致代
	委　員　藤井 奈保	委　員　杉江 圭司	委　員　加藤 英子
	委　員　牧　治	委　員　加藤 和守	委　員　加藤 孝介
	事務局長　相馬 貴久		事務局員　川地 里香
	事務局員　羽間 弘美	事務局員　西山 京子	事務局員　加藤 由美子
	事務局員　藤本 竜弘	事務局員　藤掛 順子	事務局員　舩坂 礼子
欠席者（敬称略） 委員　5名 事務局　1 名	委　員　中島 史恵	委　員　宇都宮みのり	委　員　中村 浩司
	委　員　三山 岳	委　員　川上 雅也	
	事務局員 池田 有希	事務局次長　藪 一之	
傍聴者等	無し		
開会時刻	10:00	閉会時刻	12:00

議　事

（司会進行：　川地里香事務局員）

○ 欠席者の確認　5 名欠席○ 配布資料の確認

<議事進行：本会議委員長 愛知県立大学教育福祉学部長 山本理絵氏>

1 議事

議題（1）連携協議会規約の改正

<田中良三事務局員>（資料1参照）全体説明

議題（2） 報告事項 ・7月23日（土）瀬戸市体育館にてボッチャ講習会について報告があった。

<福田致代委員>

説明の可視化による理解促進や、メンバー変更による交流の工夫等の提案があった。

<加藤和守委員>

公民館のバリアフリー化や、学校施設の利用について提案があった。

<福田致代委員>

知的障害者との触れ合いの工夫について提案があった。

<加藤和守委員>

公民館関係者が障害者と交流するきっかけを作ることを考えていきたい。

<稲垣宏和委員>

ボッチャが、年齢等関係なく楽しめるものであることから、今後も進めたい。

<杉江圭司委員>
スポーツを通じて理解が深まることを期待している。
<加藤英子委員>
大学生や公民館の方など、多様な人との交流について検討が必要である。
<羽間弘美事務局員>
現在学校教育課では、小中学生に向けてのボランティアのみだが、今後障害のある方に向けてのボランティアを募集することも可能である。
議題（2） 報告事項　連続講座について
<加藤由美子事務局員>
保護者がどのようにそれを受け入れ、何を目標にしていくのか、考えていきたい。
議題（3）ボッチャ大会について
<川地里香事務局員>・ 資料5の提示 進捗状況報告
議題（4）視察研修とコンファレンス
<田中良三事務局員>
・視察研修について
・コンファレンスについて
資料4提示
1月14日（土）開催 NPO法人杏、瀬戸市教育委員会、文部科学省 主催
犬山市も今年度の文科省の委託を受け共催
一番大切なことは、実際に取り組んだことをまとめ、一歩前進させること。地域の財産として残せるようにしたい。
<山本理絵委員長>
視察については、それをどう生かしていくかということが前回も課題として出されていた。
<小川純子委員>
コンファレンスについて、3人の方がどのような話をするか、事前に知りたい。成果報告の中で「つなぐ」ということが大切。1年目の事業とどうつながってきたのか、もしつながっていなければどうしてなのか、どうつなげていくかを探っていきたい。
<此下明雄委員>
瀬戸市が先進的なことがよく分かった。地域共生社会を目指すために、一つ一つの取り組みを大切にしていきたい。
（5）その他
<川地里香事務局員>
資料6、前回の議事録報告
「障害を理解するためのハンドブック」紹介
<田中良三事務局員>情報提供
「第 6 回全国障がい者障害学習支援研究集会」

文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」（２年目）

第３回連携協議会　次第

令和５年２月８日(水)
１３：３０～１５：３０
場所：デジタルリサーチパークセンター
マルチメディア電子会議室および ZOOM

１　議 事
（１）実施事業の報告
・ボッチャ大会
・障害者生涯学習連続講座
（２）視察研修の報告
（３）コンファレンスについて
（４）次年度に向けて

２　配布資料
資料１　ボッチャ大会アンケート結果
資料２　障害者生涯学習連続講座まとめ
資料３　視察研修報告書
資料４　コンファレンスアンケート結果
資料５　令和４年度（２年目）スケジュール
資料６　第２回連携協議会議事録
※参考資料　コンファレンスプログラム集

2022 年度
文部科学省：学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」
第3回 瀬戸市連携協議会　記録

日 時	2023年 2月8日(水)　13:30～15:30		
会 場	デジタルリサーチパークセンター マルチメディア電子会議室		
出席者（敬称略） 委員　12名 事務局　5名	副委員長　林 ともみ	委　員　中島 史恵	委　員　稲垣 宏和
	委　員　松川 博茂	委　員　小川 純子	委　員　田中 良三
	委　員　川上 雅也	委　員　藤井 奈保	委　員　福田 致代
	委　員　加藤 英子	委　員　杉江 圭司	委　員　中村 浩司
	事務局員　川地 里香	事務局員　加藤 由美子	事務局員　舩坂 礼子
	事務局員　藤本 竜弘	事務局員　羽間 弘美	
欠席者（敬称略） 委員　8名 事務局　5名	委員長　山本 理絵	委　員　宇都宮みのり	委　員　加藤 孝介
	委　員　三山 岳	委　員　加藤 和守	委　員　犬飼 保夫
	委　員　牧　治	委　員　此下 明雄	
	事務局長　相馬 貴久	事務局次長　藪 一之	事務局員　西山 京子
	事務局員　池田 有希	事務局員　藤掛 順子	
傍聴者等	無し		
開会時刻	13:30	閉会時刻	15:35

議　事

（司会進行：　川地里香事務局員）

○ 欠席者の確認

14名欠席（上記参考） 委員長欠席のため、副委員長の林ともみ委員が司会者

○ 配布資料の確認

<議事進行：本会議副委員長 林ともみ氏>

1 議事

議題（1）実施事業の報告

<川地里香事務局員>・ボッチャ大会

<羽間弘美事務局員>・障害者生涯学習連続講座

議題（2） 視察研修報告

<田中良三委員>

視察研修をなぜやるかという意義を大切にしたい。乳幼児期から学齢期を扱うことは「学校卒業後」を考える礎となる。奈良県一般社団法人みやこいち福祉会はこの近隣ではあまり見られない形態で、これからも注目していきたい。名古屋の障害者青年学級「汽車ポッポ」は青年学級という形で始まり、長い歴史がある。こういった拠点が必要。視野を広げ、地域に根差しその地域に合った障害者のサークルの場について考えることができた。

見せていただいた。生活訓練もしていると思った。

議題（3） コンファレンスについて

<船坂礼子事務局員>
コンファレンスの当日冊子とアンケート結果の資料4から報告
議題（4） 来年度に向けて
<川地里香委員> ・来年度の事業申請について
事務局の中で役割を変えながら進めていく。
<田中良三委員>
この委託事業は「瀬戸市における」という言葉がついている。行政と民間の協働が必要で、3年間しか委託はないため、そのあとの4年目にどうしていくかが大切。行政だけでなく民間の力も必要なため、どんな仕組みを作っていくかがこれからの鍵となる。事業の予算化をするためにも市長をはじめ、教育委員会や市議会にも話をして進めていき、皆さんの力を借りたい。
<中島史恵委員>
2年間参加させていただき、学びがあった。3年目も参加させていただきたい。
<稲垣宏和委員>
障がいのある人もない人も同じように学べる社会が望ましいことをみんな認識しているが、実際に乗り越えることが難しい壁がある。
<中村浩司委員>
ボッチャに関しては、ニュースポーツとして講習会や大会など今後取り組んでいきたい。
<福田致代委員>
公民館で障がいのある方の生涯学習を行うメリットがあるといいなと思う。
<杉江圭司委員>
公民館だけでなく、地域交流センターでもボッチャの取り組みがみられるようになっている。
<川上雅也委員>
障害者の方も高齢化問題はある。切れ目のない支援ということが一番大切。
<加藤英子委員>
周産期センターもやっている陶生病院のため、そこにいた子どもたちがここにいる皆さんに大変お世話になっている。目の前にいる患者さんは明るく生きている様を見せていただき、力になっている。
<小川純子委員>
来年度、連続講座を障害のある方にも必要。講師としてお招きする人の一覧を作っている。どんな組織にするか、具体的に考えていきたい。自分ができることで協力していきたい。
<藤井奈保委員>
障害のある方が公民館にくるためには、スキルをもっているボランティアも必要である。
<松川博茂委員>
キーワードは「つなぎ」。障害のある人にとって生涯学習の必要性とその課題を考えた。
〈杉江圭司委員〉
障害者の生涯学習に関しては、踏み出したばかりの公民館のため、皆さんからのお声や力が欲しい。

以上

４．学習プログラムの開発

Ⅰ　障害者生涯学習連続講座

Ⅱ　ボッチャ講習会とボッチャ大会

Ⅲ　視察研修

Ⅰ．障害者生涯学習連続講座

文部科学省：令和４年度　学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

障害者生涯学習連続講座・2022　＜全５回＞

コーディネーター：田中良三（愛知県立大学名誉授）

	日時	場所	内容（ライフステージ）	講師	司会
第１回	６月 24 日（金） 9：30～ 11：30	陶原公民館	①本事業の経緯と説明 ②瀬戸市における障害者福祉の実態と課題	①田中良三 （愛知県立大学名誉授） ②森寛之（瀬戸市障がい者相談支援センター長）	川地
第２回	８月 23 日（火） 13：30 ～ 15：30	NPO 法人杏	卒業後	相馬貴久（NPO 法人杏理事長）	林
第３回	10 月 19 日 10：00～ 12：00	瀬戸特別支援学校	学校期（小・中•・高）	松川博茂（瀬戸市立瀬戸特別支援学校長）	羽間
第４回	11 月 18 日（金） 10：00～ 12：00	のぞみ学園	乳幼児期	中島史恵（のぞみ学園園長）	加藤
第５回	12 月１日（木） 9：30～ 11：30	陶原公民館	まとめ	田中良三 （愛知県立大学名教授）	田中

１　本講座の趣旨と課題

（1） 趣旨

前年度の事業についてのアンケートから、公民館の皆さんが障がい者に接する機会が少なく、接し方に不安を抱えていることや学ぶ機会が欲しいといった声が聞かれました。そこで、障がい者について以下の視点を取り入れた連続講座を計画しました。

①<u>ライフステージ</u>

障がい者が、乳幼児期から学校期（小・中・高）、青年・成人期（卒業後）の各ライフステージでどのような療育、教育、支援を享受してきたか、順に追いながら学びを進めます。

②<u>実地見学</u>

写真や映像だけでなく、ライフステージごとの活動実地の見学を通し、障がい者をより

身近に感じながら学びを深めます。

③グループワーク

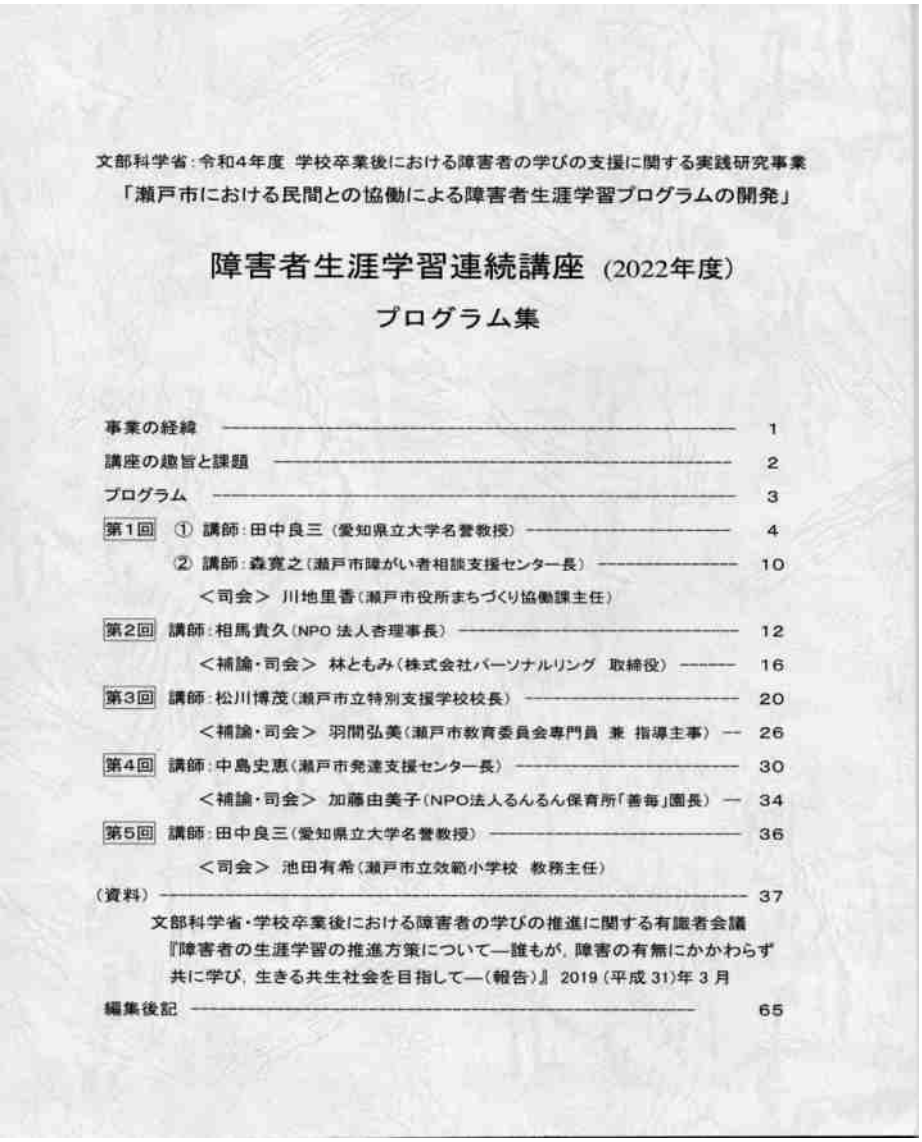
受講生間で、実地の見学を通してもった疑問や感想、課題をアウトプットし、学びを交流します。

④コーディネーターの配置

講師、司会、受講生を繋ぐ連続講座のコーディネーターを配置し、グループワークでの交流を活発化させ、全国的視野に立って、地域における障がい者の生活状況についての理解を深めます。

（2） プログラム集の作成

事前に、講師と司会者が講座で学ぶ内容についてまとめた冊子を受講者に提供しました。講座の前後に、学ぶ内容について確認することができるようにしました。



文部科学省：令和4年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

障害者生涯学習連続講座（2022年度）
プログラム集

事業の経緯 ―― 1
講座の趣旨と課題 ―― 2
プログラム ―― 3
第1回 ① 講師：田中良三（愛知県立大学名誉教授） ―― 4
② 講師：森寛之（瀬戸市障がい者相談支援センター長） ―― 10
＜司会＞ 川地里香（瀬戸市役所まちづくり協働課主任）
第2回 講師：相馬貴久（NPO 法人杏理事長） ―― 12
＜補論・司会＞ 林ともみ（株式会社パーソナルリング 取締役） ―― 16
第3回 講師：松川博茂（瀬戸市立特別支援学校校長） ―― 20
＜補論・司会＞ 羽間弘美（瀬戸市教育委員会専門員 兼 指導主事） ―― 26
第4回 講師：中島史恵（瀬戸市発達支援センター長） ―― 30
＜補論・司会＞ 加藤由美子（NPO法人るんるん保育所「善毎」園長） ―― 34
第5回 講師：田中良三（愛知県立大学名誉教授） ―― 36
＜司会＞ 池田有希（瀬戸市立效範小学校 教務主任）
（資料） ―― 37
文部科学省・学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議
『障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが，障害の有無にかかわらず共に学び，生きる共生社会を目指して―（報告）』 2019（平成31）年3月
編集後記 ―― 65

（３） 課題

本事業終了後も、公民館などでの障がい者向けの生涯学習講座などが充実し、学校卒業後も障がい者が生涯にわたって地域で学び、豊かに生活し続けることができる支援の在り方について学ぶ。

２　各講座での学び

（第１回）

①　「本事業と連続講座について」　　田中良三（愛知県立大学名誉教授）

２０１４（平成２６）年の障がい者権利条約の批准や、２０１６（平成２８）年の障がい者差別解消法の施行を踏まえ、２０１７（平成２９）年、当時の松野文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」が紹介されました。これまでの行政は「学校教育施策」「福祉施策」「労働施策」によって障がい者支援を行い、生活の保障と就労の場の確保・拡充する政策が中心となってきました。しかしこれからは、学校を卒業した障がい者が、生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるような政策が重要で、これを「特別支援教育の生涯学習化」と表現したのです。障がいによる自立度が違っても、生涯学習を通じた「生きがいづくり」、地域との「繋がりづくり」を推進していくために、２０１８（平成３０）年度から「学校卒業後における障がい者の学びの支援に関する実践研究事業」が始まりました。この事業の採択団体は全国に広がり、各教育委員会や大学、NPO 法人、保護者会などが中心となっています。瀬戸市は２０２１（令和３）年度に採択を受け、「ボッチャ」を通しての学びの場づくりを進めてきました。そして今年度は、昨年度の事業を引き継ぐだけでなく、この連続講座を目玉とし地域との「繋がりづくり」を目指すことになりました。

②　「瀬戸市における障がい者福祉の実態と課題」

森　寛之（瀬戸市障がい者相談支援センター長）

初めに、「障害を理解するためのハンドブック」から障がいの種類やその特徴、困ったときの対応の仕方を教えていただきました。私たちは「障がい」という枠で十把一絡げにして障がい者をとらえていることに気づかされました。瀬戸市の自立支援協議会は「まっとつながろまい（もっとつながろう）」の精神で進められ、真に効果のある障がい者施策の実現に向けて、様々な事業に取り組んでいました。しかし依然と虐待や差別もあり、支援の質の担

保や障がい者やそのご家族の生活や人生が豊かになったかという視点が常に必要ということが分かりました。

【参加者】公民館関係者８名、事務局 11 名

【学びの振り返り】
本事業の軸となる政策や考え方が理解できました。障がいをその人の一部と考え、心のバリアフリーを確立することが、この事業の出発点となると学びました。「福祉」とは「（ふ）普段の（く）暮らしの（し）幸せ」という言葉が心に刻まれ、生きがいや繋がりは人間として当たり前に追求していくものだと感じました。

（第２回）

「障がい者支援事業所の取組」　　相馬貴久（NPO 法人杏理事長）

就労継続支援Ｂ型事業所・生活介護事業所の「杏」の見学とともに、その場をお借りしたグループワーク、利用者との交流を行いました。この日は普段の作業活動ではなく「お楽しみ会」が行われており、音楽に合わせてバランスボールを楽しむ利用者の方々の笑い声が、清潔で明るい施設に響いていました。「杏」では、一人ひとりの能力に合わせた仕事を提供し、作業や集団活動を通じて就労に適応する知識や能力、および社会生活を送る上での必要なマナーとルールを身に着けられるような支援を目指しているとのことでした。「挨拶」「返事」「後片付け」の習慣化というシンプルな言葉で全員が目標に向かっていることが、利用者だけでなく支援者の方々の様子からも伝わってきました。また、用意されたスライドでは、障がい者の成人式の様子や障がいがありながらも社会やスポーツで活躍する方々の様子が紹介されました。司会者の林さんの福祉番組「ともみとともに」には、余暇をエンジョイし、自分の可能性を追求している障がい者の方々が多く紹介されていました。グループワークでは、聞きなれない「A 型・B 型就労」に関する質問や、公民館で行われている講座への参加の可能性なども話し合われました。る講座への参加の可能性なども話し合われました。

【学びの振り返り】
生き生きと遊びを楽しむ利用者の方々の様子にこちらが明るい気持ちにさせられました。ボッチャの練習にも勤しみ、秋に行われるボッチャ大会への期待が伝わってきました。社会で活躍する障がい者の姿に感動し、自己実現の道のりは、障がいの有無にかかわらず、みな同じであることを感じました。

【参加者】公民館関係者５名、事務局８名

（第３回）

「共生社会を見据えた肢体不自由特別支援学校の取組」

松川博茂（瀬戸市立瀬戸特別支援学校長）

２０１０（平成２２）年に保護者の願いから開校した瀬戸市立瀬戸特別支援学校の概要説明と見学、グループワークを行いました。通称「さくらんぼ学園」と呼ばれるこの特別支援学校は、通常の学校（萩山小学校・光陵中学校）と校舎を同じくし、その児童生徒とも交流を行っていることが大きな特徴です。施設のいたるところに見られる様々な形状の車いすやプロムボードは肢体不自由の児童生徒一人ひとりの障がいに合わせて作られたものでした。

また教育課程も同じように障がいに合わせたもので、個々に合わせた教育課程の中で、その子の能力を最大限に引き出す活動が教室では見られました。特に自立活動では、様々な道具を使って、マンツーマンで教員や介護員が障がいのある児童に向き合う様子が見られました。グループワークでは、松川校長から出された「ノーマライゼーション」「交流・ICT 活用」「安心安全のために」「コミュニティスクール」のキーワードから、特別支援学校の子どもたちにどんな生涯学習が必要かを話し合いました。防災や学校施設の活用など様々な意見が出されました。特にさくらんぼ学園がある萩山公民館の方からは地域との繋がりの糸口となる意見が多く出されました。

【学びの振り返り】
校訓「今を生きる」の言葉通り、自分のできる力を振り絞りながら学習に取り組む子どもたちの様子に感動させられました。地域コーディネーターの方のご参加もあり、学校が地域に果たす役割などについても活発な意見が出されました。ネットワークづくりの必要性と難しさを感じました。

【参加者】公民館関係者５名、事務局９名

（第４回）

「乳幼児における障害児発達支援について」

中島史恵（瀬戸市児童発達センター長兼のぞみ学園長）

１９７６（昭和５１）年に開所した障害児通所施設は、様々な障がいのある３歳児から就学前の５歳児までが通っています。初めに中島園長より、療育のポイントについて教えていただきました。「スモールステップ」「環境」「集団生活」をキーワードとし、今もっている力を最大限に発揮させ、将来の社会生活に参加する意欲を育てることを念頭においた支援について学びました。成功体験を積み重ね、困ったときに頼れる大人が近くにいること、やろうと思う意欲が「できる」ことにつながっていくことは、子どもたちの人間としてのベースを作り上げることになることが分かりました。遊戯室には、ダイナミックな運動遊びの設備が常設されていて、子どもたちが運動を通して、体の機能を高めていける環境が整っていました。小春日和の園庭でのびのびと遊ぶ園児と、その子らを追いかける支援者の様子を見ていると、温かい気持ちに浸ることができました。グループワークでは、子育て経験のある受講者から、自身の体験談が多く出されました。出産当初から障がいについて心配が尽きない保護者が、安心して子育てができる環境の大切さや、周りの理解の必要性などが話題に上がりました。

【学びの振り返り】
障がいがあっても小さい体で思い切り走り回る園児たちを前に、健やかに成長してほしいと願わずにはいられませんでした。「お母さんを元気に、お母さんを笑顔に」することが、障がいのある子らの健やかな成長につながるのならば、障がい者家族が安心できる場の提供は必要不可欠であると感じました。

【参加者】公民館関係者４名、事務局８名

（第５回）

「障がい者生涯学習連続講座まとめ」　田中良三（コーディネーター）

これまでの講座の内容を振り返り、グループワークを中心にまとめを行いました。受講者それぞれの立場から、これまでの講座で印象的だったこと、今現在の取組などの話題が出されました。施設の整わない公民館に障がい者を招くことは難しくても、障がい者の作品を展示することで、理解の広まりを手助けできた事例や、防災訓練に障害のある親子が参加された話などが紹介されました。また、それぞれの地域が抱える高齢化についても話が及び、高齢者と障がい者がともに楽しむことができるボッチャについては、これからも人気が高まるであろうと期待の声が聞かれました。また、障がいのある児童生徒の放課後の居場所について公民館が担える可能性についても意見が出されました。他市では大金を使い、障がい者施設を一つにまとめる動きもあるようですが、それではインクルージョンの理念からは離れてしまいます。瀬戸市は各地域に公民館が多くあるという利点を生かし、今後も障がい者が地域との「繋がり」をもてるよう、そしてそのつながりの中で「生きがい」を探していけるような公民館の役割を模索していく方向性を確かめ合いました。

【参加者】公民館関係者８名、事務局８名

３　本講座の成果と課題

（１）成果

① 障がい者やそのライフステージについての理解の深まり。

② 障がい者と高齢者の余暇活動の共通点の発見。

③ 障がい者の生涯学習を考えることがその家族を支えることにもつながること。

④ 障がい者だけでなく地域のすべての人々への「生きがいづくり」「繋がりづくり」の必要性の認識。

（２）課題

① 公民館活動がボランティアに任されているため企画運営が困難。

② 高齢化やコロナ禍による公民館活動の制限、縮小。

③ 行政と民間の連携の必要性。

（文責：羽間弘美 ）

★『地域共生社会をめざす障害者の生涯学習支援コンファレンス in 瀬戸プログラム集』より。

Ⅱ. ボッチャ大会 2022

瀬戸市まちづくり協働課　川地　里香

１. ボッチャを柱に

ボッチャは、東京パラリンピックの開催を契機に認知度があがった誰もが楽しめるスポーツです。パラリンピック開催の年から本事業が始まり、瀬戸市においてもボッチャが実施されることが多くなっています。

瀬戸市では、障害者の生涯学習の機会を拡大していくことをねらいとして、2021 年度（令和 3 年度／事業 1 年目）からボッチャを柱に諸事業を進め、2022 年度（令和 4 年度／事業 2 年目）もボッチャの講習会と大会を開催しました。

また、この事業では、障害者の生涯学習の機会拡大への理解促進を図るため啓発を行うとともに、様々な立場の方が交流できる機会を創出しました。

２. ボッチャ講習会の実施

ボッチャ大会の実施には、まず、障害福祉事業所や公民館等においてボッチャについてもっと知ってもらい、また、体験してもらう機会が必要との考えから、2022 年 7 月 23 日(土)にボッチャ講習会を実施しました。

事業 1 年目は、一般募集は行わず、3 つの公民館と 3 つの障害福祉事業所に参加を依頼し、参加対象者を限定して行いましたが、2 年目は市内全ての公民館および障害福祉事業所へチラシを配布し、広く参加者を募りました。その結果、4 つの公民館から合計 14 名、3 か所の障害福祉事業所から合計 17 名の申込みがありました。

また、1 年目に引き続き障害者親の会「Happykids」と、2 年目には瀬戸ロータリークラブの参加も得て、総勢 39 名の方に参加いただき開催することができました。

講習会は、市体育館を会場に、「ボッチャについてのお話」、「ボッチャにチャレンジ！」、「記念撮影」、「アンケート」を主なプログラムとして実施しました。講師には、あいちボッチャ協会から講師を招くとともに、事業を知りボッチャの審判養成研修を受講された福祉事業所職員の方にも講師を担っていただき実施しました。

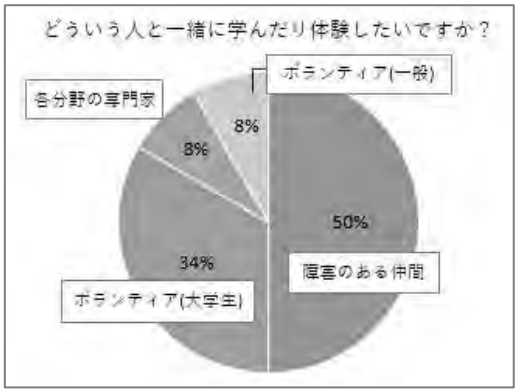
また、当日は、障害福祉事業所や公民館でのボッチャ実施に活かしてもらえるようにボッチャの体験だけでなく、ボッチャコートの作り方も

体験できるコーナーを設けるなど工夫し実施しました。

さらに、アンケートの実施においても事務局スタッフが参加者へ直接聞き取りを行う工夫をしました。これにより、参加者本人からの声を直接聞くことができ、また、本事業の目的やアンケート項目の意図などを伝えることができました。

【障害者本人向けのアンケート結果】

17名の方に回答していただくことができました。ボッチャを体験して「楽しかった」、「またやりたい」という声が大半を占め、「『ボールを投げるところ』や『チームの人と一緒にやるところ』が楽しかった」という意見が半数以上ありました。また、生涯学習を『どういう人と一緒に学んだり体験したいですか？』という問いに対し、「障害のある仲間」と「大学生のボランティア」は全体の7割を占めました。



グラフ①

【支援者・保護者向けのアンケート結果】

『公民館などの地域で行われる生涯学習に必要だと思うもの・求めるものは何ですか？』という問いに対し、「地域の障害への理解」、「障害者のニーズにあった学習内容」、「障害に配慮された体制」という回答が多くあった他、自由記述では「障害者でも気軽に参加できる場が増えて欲しい。」、「学校卒業後、運動不足の子が多いので、利用者の子も保護者の方もスポーツの機会に親しむ事ができると喜ばれると思います。」という意見もありました。

また、障害福祉事業所の職員と話をする中で、「公民館のような身近なところで学べる場ができるのは良いことだが、その場所まで自力では行けない利用者の方もいる。」といった意見も聞かれ、移動の支援に関する問題点も見えてきました。

３.「まっとつながろボッチャ大会」の実施

【開催場所と開催日の工夫】

事業1年目は、「瀬戸ボッチャクラブ[1]」が主催し毎年開催されているボッチャ大会に本事業が共催として関わり実施しましたが、2年目は、NPO法人杏が主催者となり大会を実施することにしました。

開催場所は、広々としたスペースで新型コロナウイルス感染症の拡大防止をはかりつつ、より多くの方に参加してもらえるよう、講習会と同様に市体育館としました。

また、開催日は、学校卒業後の障害者の方が参加しやすいよう、障害福祉事業所の開所日で、かつ、祝日である11月23日に設定しました。

[1] 瀬戸市立瀬戸特別支援学校（通称：さくらんぼ学園）が行ってきたボッチャ大会を継承し、発展させていくために独立した組織として「瀬戸ボッチャクラブ」がある。

【既存行事との連動】

事業2年目は、多くの方に知っていただくことも視野に入れ、「地域の障害理解を深めること」と、「障害福祉事業所の横のつながりを強めること」を主な目的に2018年度（平成30年度）から始まった瀬戸市障害者地域自立支援協議会が主催する「まっとつながろ祭（さい）」と連動して実施しました。

当該行事の企画運営は、障害福祉事業所の職員や市社会福祉課の職員等が協働で行われます。例年は、事業所がそれぞれに得意分野を活かしたブースを出したり、自主製品を販売したり、屋台を出すなどする行事です。（「まっと」とは瀬戸弁で「もっと」という意味です。地域も障害福祉事業所も行政も、もっとつながろうという意味が込められています。）

今回はミニゲームができるブースや、障害福祉事業所の利用者の方の作品を展示するブースが設けられました。また、祭と大会のオープニングとして、NPO法人杏が「ソーラン節」を踊りました。まっとつながろ祭と連動することで、スポーツに限らず、ダンス、美術・工作などの文化芸術にも触れられる機会を作ることができました。

また、この行事の会場の半分を「ボッチャ大会」に、もう半分を「まっとつながろ祭」に分け、お祭りに来た人がボッチャを観戦したり、ボッチャに参加した人が、まっとつながろ祭に参加したりして、双方を楽しめるように実施しました。

【参加者と運営者】

ボッチャ大会は、講習会と同様、市内全ての公民館と、障害福祉事業所にチラシを配布し、参加を呼びかけ44名／10チームで対戦しました。

運営にあたっては、1年目に引き続き瀬戸特別支援学校コミュニティ・スクールの地域コーディネーターに運営補助を依頼し関わっていただきました。

●参加チーム●
- 長根公民館：1チーム4名
- 瀬戸ロータリークラブ：1チーム6名
- 障害福祉事業所てんとうむし：2チーム11名
- 障害福祉事業所ジョブクルー：1チーム4名
- 障害福祉事業所らいむ畑：1チーム4名
- 障害福祉事業所アップルシード：個人1名
- 障害者親の会Happykids：2チーム6名
- NPO法人杏：2チーム8名

※合計10チーム44名
※個人申込みの方は、Happykidsと混合チーム

また、前述のアンケート結果（グラフ①参照）にあるように、「生涯学習を大学生ボランティアと一緒に学んだり体験したい」という声が多くあったことから、6名の大学生にボランティアの運営参加を得ることができ、コートづくりなどの会場設営や審判補助等の運営補助に協力いただきました。大学生に対してもこうした事業を知ってもらうことができた他、実際に地域での事業に携わっていただけたことは、良い機会になったと考えます。

また、審判には、講習会と同じ2名の方に依頼したほか、社会福祉協議会から1名、

瀬戸市立瀬戸特別支援学校から３名と、合計６名の審判のもと、大会を進めました。

【特別ゲストの技を間近で】

大会当日は、特別ゲストとして、ロンドンパラリンピックに出場された加藤啓太選手をお迎えし、くじを引き当てた NPO 法人杏Ｂチームが、大会の開始前のエキシビションマッチとして対戦しました。エキシビジョンマッチでの加藤選手の技に、会場内の全員がくぎ付けとなり、歓声や拍手が湧き起こり、大会はスタートしました。

全 10 チームはトーナメント戦を繰り広げ、NPO 法人杏Ａチームが優勝し、瀬戸ロータリークラブからトロフィーが授与され、また、参加者全員にはマグカップの記念品が贈られました。

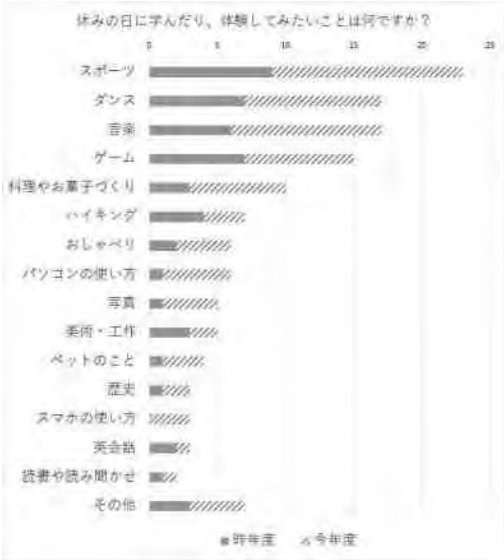
大会を通して参加者の素晴らしいプレーには拍手が起こり、健闘を称え合い、まっとつながった大会は、優しく温かい雰囲気の中、大盛況のうちに終えることができました。

今回実施したボッチャ大会は、様々な立場の方に関わっていただくことができ、参加者の数字として目に見える成果以上に、来場した多くの方にもこうした取り組みを知っていただくことができた大変意義のある大会になりました。

４. アンケート結果から

【障害者本人の声】

『今日のボッチャ大会で一番よかったことを書いてください。』という問いに、「ボッチャは頭を使うので大変でした。」、「次は１位を目指してがんばります！」、「友達に会えた。」などの回答がありました。ボッチャを楽しく行った方もいれば、友達や学校の先生に会えることを楽しみにしている方もいることが分かりました。



グラフ②

『休みの日に学んだり、体験してみたいことは何ですか？』という問いについて、事業１年目に行ったボッチャ大会の際のアンケート結果と合わせて見ると、「スポーツ」が最も多く、「音楽」、「ダンス」、「ゲーム」、「料理やお菓子づくり」と続きました。「その他」の中には、「映画、フライングディスク、カラオケ」などを挙げた方がいました。

【支援者・保護者の声】

『ボッチャ大会に向けて、利用者の方やご本人に変化はありましたか？』で「あった」と答え方に具体的に様子を記入してもらいました。「友達に会えるのを楽しみにしていました。」、「日を数えて当日を待っていた。」、「事前の練習から気合が入っていた。」など、大会を楽しみにしていた様子がわかりました。他にも、「楽しみが多いと精神も安定するので、このような機会がたくさんあればいいなぁと思います。」、「ボッチャ大会が始まるまで、子どもは知らない人が沢山いて不安で行きたがらなかったけど、会場に行ったら知り合いもいてボッチャも以前練習していたのを思い出して楽しくすごせました。」という回答もありました。

この回答から『そこに行けば知っている人がいる』という安心できる環境作りはとても大切で、継続して行うということは、重要な意味があることを改めて感じました。

他にも、「この事業に協力してくださる公民館や地域交流センターで、それぞれ年 1 回でも障がい者の生涯学習が開催されれば、障がいのある人達の学ぶ場や集える場を作れるのではないでしょうか？」といった意見や、障害福祉事業所の職員からは「パンやコーヒーの自社製品の教室等を地域の人も交えて開催したいと考えている。」というアイデアがありました。

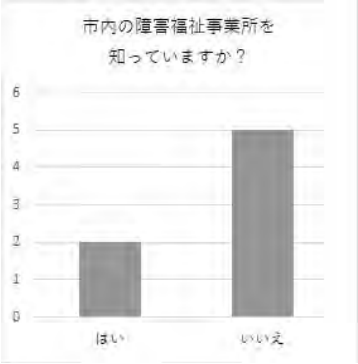
【ボランティアの声】

『今回の大会に参加して気づいたこと・良かったこと、事業に関するご意見等、ご自由にお書きください。』という問いには、「障がいに関係なくボッチャという競技ができることがすごくいいなと思いました。」、「人と繋がれる機会、場所があることが凄く素敵なことで、必要なことだと感じた。」、「参加選手のお互いの応援や観戦のし合いに感動し、まわりの人たちの温かい声援や接し方が学びとなりました。」、「こういう機会をどんどん宣伝していきたいなと思いました。」、「今まで教科書や先生の話でしか知らなかった事を自分の目で見ることもできました。」という回答がありました。実際に事業に関わっていただいたことが、今後の糧になれたら嬉しく思います。

【公民館の声】

アンケートでは、大会を迎えるにあたり「ボッチャに興味を持った・調べた」、「地域の障害福祉事業所に興味を持った・調べた」、「ボッチャ実技研修会を公民館にて行いました」といった回答がありました。

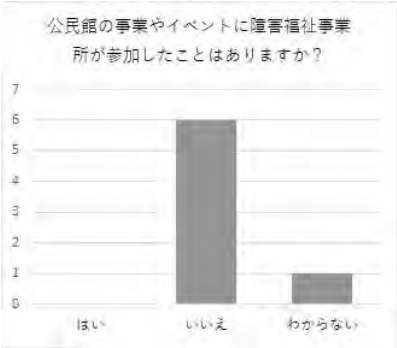
また、大会に参加した長根公民館は、公民館事業の中で取り入れていくために、経験者を増やしておきたいという思いのもと、講習会にも参加されたとのことです。



グラフ③

ここでは講習会のアンケート結果も含めて記載します。講習会には、長根公民館のほか、掛川公民館、原山公民館、萩山公民館が参加しました。参加した理由を聞いたところ、「今後、地域で大会が開催される予定の為」、「少しでも知りたいと思ったから。」、「公民館の体育事業部でやれたら良いと思った。」など、地域

でボッチャを取り入れる予定があることが分かりました。



グラフ④

また、『公民館の生涯学習事業に障害者の視点を取り入れたことはありますか？』という問いには、「はい」が 0 人、「いいえ」が 7 人となりました。「市内の障害福祉事業所を知っていますか？」という問いには、「はい」が 2 人、「いいえ」が 5 人となりました。「公民館の事業やイベントに障害福祉事業所が参加したことはありますか？」との問いには、「はい」が 0 人「いいえ」が 6 人、「わからない」が 1 人という結果になりました。

今後は、障害者がどのように地域の中で公民館等と交流し、繋がりを持てるのかを考えていく必要があります。

５. これからについて

本事業の中で行うボッチャは、障害者の生涯学習を推進する 1 つの手法にすぎませんが、ボッチャはどのようにして生まれたスポーツなのか、どんなルールがあるのか等を、深く知っていくことで、障害理解にも繋がっていきます。

2021 年度に開催された「東京 2020 パラリンピック」でのボッチャ選手の活躍は、公民館の方にも注目され、「テレビで初めてボッチャを見た。」、「とても素晴らしいプレーに思わず見入ってしまった。」といった声が聞かれました。こうしたパラリンピックでの選手の活躍や本事業の取り組みもあり、2022 年度になってからは、公民館をはじめ地域でボッチャが事業に取り入れる動きがみられ、瀬戸市内において、以前よりボッチャが盛んになってきています。

地域に暮らす障害者の方や、障害福祉事業所に通う方々が、公民館等で行われるボッチャ事業に参加するようになれば、そこから新たな交流が生まれます。

また、ボッチャに限らず、障害者の方が地域で行われる諸事業に参加しやすくなるよう、これまでの公民館等で行われてきた事業を見直したり、障害者の視点に立った生涯学習を新たに実施するなども望まれます。そのためにも、本事業で得た障害者本人・支援者や保護者・公民館からの意見や希望、アイデアなどは広く共有し活用しながら、行政、地域団体、大学や企業などが一体となって障害者を支える仕組みづくりを進めていく必要があります。

障害者の生涯学習の機会拡大・促進は、ボッチャに限らず様々な機会において、障害のあるなしに関わらず誰もが広く参加できる生涯学習の場を創出していくことが大切です。本事業に参加・参画いただいた方々が、それぞれの立場やコミュニティにおいて、この経験を通して得たことを活かしていただけることを願います。そして、障害者が学校卒業後、障害福祉事業所等と自宅の行き来だけでなく、地域に開かれた様々な場所での「学び」が生活の一部となる社会を実現していきたいと考えます。

みんなでボッチャ 大会に43人

障害者、健常者が楽しく 瀬戸

瀬戸市体育館で11月23日、「まっとつながろボッチャ大会」が開かれ、地域住民と市内の障害者施設に通う利用者の計43人がボッチャを通して交流を深めました＝写真。

ボッチャは各チームが6球ずつボールを投げ、ジャックボールと呼ばれる白い球に近づける競技。年齢や性別、障害の有無にかかわらず楽しめ、パラリンピックにも採用されています。

大会は文科省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の一環で、同省から委託を受けた市内障害福祉事業所「NPO法人杏」が市と共催し、2回目。

10チームがトーナメント方式で対戦。プレーヤーは上から横から、もしくは補助器具を使うなど自由な投げ方で挑戦し、白い球に寄せると「やったー」と全身で喜ぶ姿がありました。

2年連続で優勝した同法人チームの東悠理さん(24)は「昼休みにみんなで練習を頑張ってきたのでうれしい」と満面の笑みを浮かべていました。

たらあちこちに草が生えてるのが目について。健康にもいいし、町がきれいになればと思って」

草の勢いが盛んな夏は2時間かけることもあるそう。話を聞いたの趣味を楽しみます。

「この前は釣った魚を近所の友人に刺し身にして届けたよ」と楽しげに話す藤田さんの毎日は、家族や仲間たちとの豊かな時間で鮮やかに彩られています。

「中日ホームニュース」2022年12月9日版掲載記事より

ボッチャ講習会参加アンケート結果（障害者本人）　2022.7.23

1.年齢

10代	2
20代	8
30代	3
40代	3
50代	1
60代以上	0

2.今までにボッチャをしたことはありますか？

はじめて	2
１度だけ	0
２，３回	1
何回もある	14

3.ボッチャを体験してどうでしたか？

楽しかった	14
むずかしかった	0
またやりたい	6
もうやりたくない	0
その他	0

4.どんなところが楽しかったですか？

ボールを投げるところ	9
勝ったり負けたりするところ	3
チームの人と一緒にやるところ	9
ルールや歴史を教えてもらったこと	3
その他	4

・全部！！
・ボールの勢いの出し方
・相手のボールを外に出させることができたこと

5.もしボッチャ大会があれば、参加したいと思いますか？

はい	15
いいえ	0
わからない	2

6. 仕事や事業所が休みのときに、ボッチャ講習会のように友だちや地域の人とスポーツや音楽や美術、好きな勉強などをしたいと思いますか？

はい	13
いいえ	0
わからない	4

7. 休みの日に学んだり、体験してみたいことは何ですか？

スポーツ	6
音楽	7
ダンス	4
料理・お菓子づくり	4
美術・工作	0
ゲーム	4
パソコンの使い方	2
歴史	0
ペットのこと	2
読書・読み聞かせ	1
写真	0
おしゃべり	4
ハイキング	2
スマホの使い方	1
英会話	0
演劇	2
その他	7

・勉強
・ショッピング
・プール
・日中一時支援に行く
・ボール（蹴る）
・折り紙
・サッカー

8. どういう人と一緒に学んだり体験したいですか？

障害のある仲間	6
各分野の専門家	1
ボランティア(一般)	1
ボランティア(大学生)	4
その他	2

9. 今までに公民館や地域交流センターを利用したことはありますか？

ある	3
・普段は行かない。昨年のボッチャ講習会に行った事はある。 ・昨年の講習会で八幡公民館へ	
ない	5
わからない	9

ボッチャ講習会参加アンケート結果（公民館）　2022.7.23

1. 今までにボッチャをしたことはありますか？

はじめて	6
１度だけ	0
２，３回	0
それ以上	4

2. 講習会に参加した理由は何ですか？

・講習会としてボッチャルール、コートの作り方を一通り体験でき、勉強しました。
・講習会があることのお誘いを受けて。
・今後、品野３館での大会が開催される予定の為。
・少しでも知りたいと思った。
・公民館にお話があり理解する為に参加。
・公民館の体育事業部でやれたら良いと思った。
・公民館行事（体育関係）の導入について参加としたいため。

3. 講習会に参加した感想をお聞かせください

・各団体さんとの交流もでき大変楽しく過せました。今後大会も計画願います。
・はじめての経験で今後もよくやっていきたい。
・説明を受けている時は、全く理解できなかったことが実際に実技で経験することにより
　おもしろさを体験できました。
・おもしろかった。少しものたりなかった。
・何もわからないルールでありどうなるかと思っていました。
・実際に試合を始めると段々とルール等もわかり、少しおもしろく感じてきた。
・試合形式だけでなく、基本的なことも教えてほしかった。
・市でそういうことをやったら教えてほしい。老人クラブへも取り入れたい。
・ルールやゲームの進め方等、大変参考になりました。

4. 文部科学省が「障害者の生涯学習事業」を推進していることを知っていましたか？

はい	5
いいえ	5

5. 公民館として、障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？(その理由は)

はい	1	
（その理由） ・やりたいと思うが、施設的に無理である。 ・交流センターの関係者が来てないのは、なぜ？ ・周りにその様な方がいないから		
いいえ	0	
（その理由）		
どちらとも言えない	7	
（その理由） ・公民館としての対応は困難「バリアフリー可（化？）」 なかなか一緒になって計画する事が困難（時間、環境）		

6. 公民館の生涯学習事業に障害者の視点を取り入れたことはありますか？

はい	0
いいえ	7

7. 市内の障害福祉事業所を知っていますか？（一つでも知っていれば「はい」）

はい	2
いいえ	5

8. 公民館の事業やイベントに障害福祉事業所が参加したことはありますか？

はい	0
いいえ	6
わからない	1

ボッチャ講習会参加アンケート結果（支援者・保護者）　2022.7.23

1.今までにボッチャをしたことはありますか？

はじめて	7
一度だけ	0
２，３回	3
何回もある	5

2.今回の講習会の改善すべき点や配慮が足りなかった点など

・場所は広くて良かったが、もっと投げたいとの声がありました。
・夏の開催というのもあり、暑かったです。
・とび込みで興味のある方が見学して下さり、うれしかったです。
・夏ということで暑かったです。もう少し涼しいシーズンに行ってもよいかと思いました。
・さくらんぼ学園の卒業生なども参加できるようになるといいと思います。
・休憩は何分までとかわかりやすい指示を！
・口頭の説明が多くわかりにくかった。
・２つグループを作ったが人数が多かったので、もっとグループを多くしてたくさん練習した方がよかった。
・満足しました。ありがとうございました。
・少し話が長かった。もう少しゲームの時間があればよかった。
・もう少し効率よく説明していただいて、審判の方の数を増やし、何回もチャレンジしてできるようになるといいなと思います。
・前説明が長すぎるので早くはじめて、それからルールを入れた方が良いと思います。
・説明する方の人数が足りないと思いました。
・隣のコートと途中、チームを入れ替えたら他のチームの人達とも交流ができたのかなと思いました。

3.文部科学省が「障害者の生涯学習事業」を推進していることを知っていましたか？

はい（この事業が始まる前から知っていた）	1
はい（この事業を通して知った）	13
いいえ	1

4.支援者・保護者として、障害者の生涯学習事業に携わりたいと思いますか？（その理由は？）

はい	13

・みなさんの真剣な顔や楽しそうな顔が見られて良かった。

・初めてゴム製のボッチャボールで消毒しやすかった。
・子どもの将来を考え、このような生涯学習は大切だと思うのでできる限り
協力できればと思います。
・自分の子どもが休日に楽しく過ごす場所が増えるといいから。
・地域のニーズがあると感じているので。
・健常者、障害者などの垣根を越えて考えながら、お互いのミスをカバーしたり
新しい展開を考えたりと、いい学習になると感じました。
・障害者は余暇の時間を使うのが難しいので、このような事業が盛んになって
出かける機会が増えると嬉しいので積極的に携わりたい。
・障害児の親なので、手がはなれつつあるため。
・今後の支援活動の一つとして。
・皆さんと一緒に楽しくスポーツなど取り組みたいです。
・今の事業所で今後働く事で利用者さん達と共に携わりたい気持ちです。
・利用者の方々が様々な人と関われる姿を間近で拝見できるから。
・週末、家で TV を観たり、ゲームをして過ごしてしまっているのなら
スポーツや芸術等で有意義な時間を過ごさせてあげたいと思います。
そのお手伝いができるのであれば携わらせて頂きたいです。

いいえ	0	
どちらとも言えない	2	

5.公民館などで生涯学習が行われているのを知っていますか？

はい	7
いいえ	1
わからない	1

6.公民館などの地域で行われる生涯学習に必要だと思うもの・求めるものは何ですか？（具体的に）

障害者のニーズにあった学習内容	5
チラシ配布先の拡充など周知啓発	3

障害に配慮された体制	5
地域の障害への理解	6
その他	1

（その他・具体的に）

・公民館のスタッフだけで障害のある人への対応は難しいと思うので各公民館に一人ずつでもコーディネーターなど養成していくのがよいのでは？

・ボランティア養成講座でも障害者への理解を深めて欲しい。

・障害者でも気軽に参加できる場が増えて欲しい。行われていても、事業者等に属していない障害者には伝わらない。もっと広告して知り得る機会を増やして欲しい。

・障がい者の方を理解して接してほしい。

・学校卒業後、運動不足の子が多いので、利用者の子も保護者の方もスポーツの機会に親しむ事ができると喜ばれると思います。

7.（福祉事業所の方）自事業所での活動など、公民館と連携して行いたいと思いますか？

思う	4
思わない	0
わからない	3
すでに行っている	0

8.（福祉事業所の方）今までに、事業所として公民館や地域交流センターを利用したことはありますか？

ある	4
ない	2
わからない	1

ボッチャ大会参加アンケート（ご本人向け）　　2022.11.23

年齢	記入なし…1
10 代	2
20 代	16
30 代	3
40 代	1
50 代	2
60 代以上	1

Ⅰ．ボッチャ大会に参加して

1. 今日のボッチャ大会は楽しみにしていましたか？

すごく楽しみにしていた	18
楽しみにしていた	2
ふつう	3
あまり楽しみにしていなかった	1
その他	・ともだちにあえたから楽しかった ・音が大きくて体調不良になった

2. 1. で楽しみにしていたと答えた人（①、②）にお聞きします。楽しみにしていた理由は何ですか？

①　ボッチャが面白いから	5
②　みんなとボッチャをするのが楽しいから	14
③　休みの日にみんなと会えるから	2
④　昨年のボッチャ大会に参加して次を楽しみにしていたから	0
⑤　その他	0

3. 1 でふつう、あまり楽しみにしていなかった（③、④）と答えた人にお聞きします。その理由は何ですか?

①　ボッチャがうまくできないから	2
②　ボッチャは楽しくないから	0
③　休みの日にはのんびりしたいから	1
④　大勢の人と会うのは緊張して疲れるから	5
⑤　その他	0

4. 今日のボッチャ大会で一番よかったことを書いてください。

・ボッチャの大会初めて行きました。ボッチャは頭を使うので大変でした。またボッチャ行きたいです。楽しかったです！！また行くときは１位を目指して頑張ります！
・きのうは、トロフィーをもらってとてもうれしかったです。つぎは１位をめざしてがんばります。ボッチャ大会に行けてよかったです。まっとつながろ祭はたいいくかんがひろかったのでよかったです。閉会式がおわったら、みんなで写真をとりました。
・みんなから上手と言われたこと。
・久しぶりにボッチャができてうれしいです。でも、ショットパワーが強すぎてジャックボールにはとどかなかったけど楽しかったです。今度は、し合前に練習がしたいです。
・貴重な体験ができて、交流が深まったことです。
・ボール上手に投げられてうれしかった。
・普段やったことのないことを実践、経験出来てよかった。
・久しぶりに同じ学校の友達や、卒業生・ＯＢのみなさんに会えて嬉しかったことや、ボッチャを楽しく仲良くできたことがいい経験になりました。
・友達に会えた。
・みんなといっしょにぼっちゃがたのしかったです。
・毎日皆で練習をしていました．本番でもジャックボールの近くまで投げる事ができうれしかったです。負けてしまってくやしいです。
・他の人とふれあえた事。
・たのしかった。
・じょうずにボールがなげれた。
・ゆうしょうできたこと。
・新しい作戦を考えた。相手のボールをとばす。それで優勝できた。
・優勝してうれしかったです。
・いろんな人とボッチャと言うスポーツができてよかったです。
・ボッチャ大会で、準優勝が出来て良かった。
・あまり気が進まないので複雑な気持ちで行ったが、参加者がみんなやり方を工夫したり研究したりして波乱の展開になったのでびっくりした。
・２位になったこと。

Ⅱ．生涯学習について

1. 休みのときに、ボッチャ大会のように友だちや地域の人とスポーツや音楽や美術、好きな勉強などをしたいと思いますか？

① はい	20
② いいえ	3
③ わからない	2

2. 休みの日に学んだり、体験してみたいことは何ですか？ （いくつでも〇をつけてください）

スポーツ	14
英会話	1
おしゃべり	4
音楽	11
歴史	2
ハイキング	3
美術・工作	2
演劇	1
ゲーム	8
料理やお菓子づくり	7
ダンス	10
ペットのこと	3
パソコンの使い方	5
写真	4
スマホの使い方	3
読書や読み聞かせ	1
その他	4
・なりきり声優 ・フライングディスク ・英会話（韓国語を勉強したい…難しいと思いますが） ・ドライブ	

3. 誰といっしょに学んだり体験したいですか？

① 障がいのあるなかま	16
② 各分野の専門家	4
③ ボランティア(一般)	0
④ ボランティア(大学生)	7
⑤ その他 ・家族…2	

4. 今までに「公民館」や「地域交流センター」を利用したことはありますか？

① ある	13…（さとの家でダンスを習ってます）
② ない	8
④ わからない	3

ボッチャ大会アンケート（公民館の方向け）　　2022.11.23

Ⅰ．ボッチャ大会について

１．大会を迎えるにあたり、当てはまることはありますか？（複数回答可）

①　ボッチャに興味を持った・調べた	1
②　ボッチャ講習会(7/23 開催)に参加した	0
③　地域の障害福祉事業所に興味を持った・調べた	1
④　当てはまるものはない	0
⑤　その他	1
…ボッチャ実技研修会を公民館にて 11/13(日)に行いました。	

Ⅱ．障害者の生涯学習の推進について

１．障害者の方と地域の方との結びつきを深めるためには、どのようなことを行うと良いと思いますか？（複数回答可）

①　障害者の方と地域の方が交流できる場を設ける	0
②　障害福祉に関する講座を開催する	1
③　障害者の方が活動する場(福祉事業所など)を見に行く	1
④　わからない	0
⑤　その他	0
具体的な案があればご記入ください	

２．障害福祉と地域の繋がりを深めるために、ご自身の立場からどんなことができると思いますか？　もしくは、アイデアなどがあればご記入ください。

（→回答なし。）

３．公民館で障害者を対象とした学習活動を実施する場合、課題になることや不安なことがありましたらご記入ください。

（→回答なし。）

Ⅲ．自由記述

今回の大会に参加して気づいたこと・良かったこと、事業に関するご意見等、ご自由にお書きください

（・体を動かすきっかけとなります。ボッチャを参考にした身近なゲームも会場にあったので興味がありました。）

ボッチャ大会アンケート（支援者・保護者）　　2022.11.23

Ⅰ．ボッチャ大会について

1. 出場した選手の様子を見て、当てはまるものに〇をつけてください。（複数回答可）

① 楽しんでいた	１９
② 頑張っていた	１３
③ 難しそうだった	３
④ つまらなそうだった	０
⑤ わからない	０
⑥ その他	０

2.（今大会に参加した障害者の方の支援者や保護者の方はお答えください。）
ボッチャ大会に向けて、利用者の方やご本人に変化はありましたか？
当てはまるものに〇をつけてください。

① あった	１２
② なかった	１
③ わからない	４
あった場合は具体的に	・友達と会えるのを楽しみにしていました。 ・カレンダーをみたりボッチャの日を楽しみにしていました。 ・日を数えて当日を待っていた。 ・ボッチャの話を家でするようになった。 ・事前の２回練習に皆さん自主的に参加されました。 ・学校でボッチャクラブに所属されていた１名は、とても楽しみにされていました。 ・昔ボッチャクラブで経験のある利用者様はとても楽しみにしておられ、当日も楽しみながらプレーされていました。 ・楽しみにしていた。 ・先月、体育館をお借りしてボッチャを初体験しました。本番に向けて練習をしましたが、練習から気合いが入っていて、チームの団結力が高まりました。 ・大会の前は毎日練習していました。「がんばるぞ～」と気合十分でした。 ・すごく楽しみにしてました。 ・団結力も強くなり皆で頑張ろう！！と思う気持ちが強まりました。 ・近づくにつれ練習にも力がはいっていた。 ・当日が近づくにつれ、障害者も、支援者も、いかに白に近づけるかなど戦力を考えたり、出場しないこも一緒に共感して、たのしむことができた様に思う。 ・大会に向け、自主的に練習したり、他利用者と練習試合をする等、励んでいる姿が見られていた。

Ⅱ．障害者の生涯学習事業の推進について

1．障害福祉と地域の繋がりを深めるためにご自身の立場からどんなことができると思いますか？もしくはアイデアなどがあればご記入ください。

・利用者さんのニーズを共有する。
※アイデアという程ではないですが、クルーの利用者さんが余暇活動でリクエストされること…
▲クッキング▲季節のイベント（パーティーとか大好きです！）▲カラオケ▲外出▲スポーツ（ダンス、ボウリング、ダンス、卓球、サッカー）▲クラフト（お花、レジン等小物）
・もっとボッチャの練習がしたいと言われる方がみえるので、もっと手軽にボッチャのセットが借りられるといいと思います。
・協働で一緒の学習事業に取り組む。
・この事業に協力して下さる公民館や地域交流センターで、それぞれ年１回でも障がい者の生涯学習が開催されれば、毎月どこかの公民館で何か教室が実施されることになり、障がいのある人達の学ぶ場や集える場を作れるのではないでしょうか？私はサポートチームとして、各公民館に行って運営のお手伝いをしたいと思います。サポートチームを作るために障がい者ボランティア講座を開くのはどうでしょうか？各公民館では地域の特色を活かした講座、プログラムを考えて下さると嬉しいです。自然豊かな所はウォークラリー、歴史ある町ならではのポイントラリー、広いスペースで運動ができるならバランスボールやダンス。調理室が使えるならお料理教室（以前私が参加した防災の料理教室は簡単だけど役立つものでしたよ！じゃがりこでポテトサラダを作る。ビニール袋に米を入れ湯せんしてご飯を作るなど）
・ボッチャや陶芸教室など、季節に合わせてプログラムを考えたりとそんなステキな生涯学習が実現できれば…まずは、何か１つでも始まるといいですね！
・様々なイベントに参加する
・子どもを連れてできる限り参加をすること。
・このような企画をいろんな人達に知ってもらえるといいと思います。
・継続的な協力、支援
・イベントのお手伝い
・運営のお手伝いやサポート
・この様な機会を増やす
・いろいろな活動を通じて、社会参加の機会が増えれば地域とつながり、障害者への理解が深まるを思う。
・今回のように、主催者と利用者さんをつないでフォローする
・自社製品（パン、コーヒー）の教室等は、いつかやりたいと考えています。
（子ども、障がいがある方、親子、地域の人等）厨房で作って、店舗で食べながら交流するとか…
・障害者の施設で働き間もないため具体的には分からないが、肢体不自由児の子どもたちもたのしめる運動機能面ではないものがあるとよいのではと感じた。見ているだけになってしまうので…。
・イベントなどに参加し、地域の方々と交流が出来たらと思っています。
・地域の清掃など。

2. 公民館などの地域で行われる生涯学習に必要だと思うもの・求めるものは何ですか?
当てはまるものに〇をつけて下さい。（複数選択可）

障害者のニーズに合った学習内容	１３
チラシ配布先の拡充など周知啓発	６
障害に配慮された体制	１１
地域の障害への理解	１３
その他（具体的に）	・以前、放デイで働いている時に地域の卓球教室に参加しようと思って見学に行ったけど、少し場ちがいな感じがしてあきらめました、という方がみえました。（卒業後に楽しめる場を探してみえました）何か手立てや介入が少しでもあれば、違っていたかもしれません。

Ⅲ. 自由記述

今回の大会に参加して気づいたこと・良かったこと、事業に関するご意見等、ご自由にお書きください

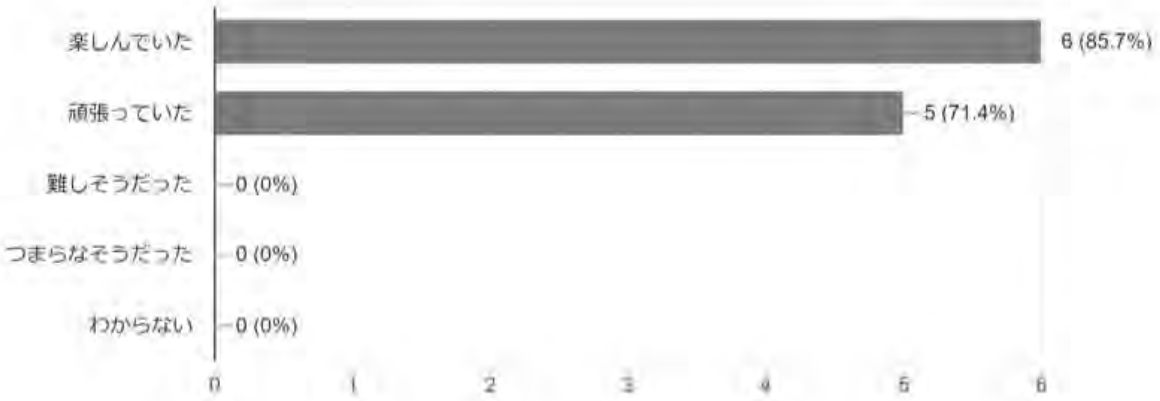
・杏さんのダンスがとても良かったです。子どもにも事業所でチーム参加できたらたのしそうだな、と思いました。
・本人がとても楽しんでいる姿をみれて良かった。楽しみが多いと精神も安定するので、このような機会がたくさんあればいいなぁと思います。
・皆さんのおかげで、楽しくボッチャに参加できて大変ありがたいと思っています。　帰りの車中で利用者さんが「来年は２位で、再来年は１位をとりたいから、練習したい」と言われました。目標や希望を応援していきたいと思いました。
※お祭りへの参加は、時間的にも体力的にも難しく、少し残念でした。
・ボッチャ大会に出場したが、他のブースを楽しむ時間がなかったところが残念に思う。
・Ｂ型でも祝日は通所しているので、なかなか大勢の参加とはならなかった。
・コロナに負けず、ボッチャ大会＆まっとつながろ祭を開催して下さりありがとうございました。日本代表の啓太さんの投球すばらしかったです！
・試合が投球練習なしで始まってしまい、事業所チームと違って事前に練習することができなかったHapopykidsメンバーは少し悔しかったみたいですが、できれば大会開始前に自主練習とか出来ると嬉しいです⇒事前申込制で制限時間10分とかでも大丈夫です。
・小中の支援級の先生方がこの大会を見に来ると障害のある子ども達が成長して大人になった時のイメージが出来ていいのではないでしょうか。ボランティアに来て下さるともっと嬉しいですが、今の先生に休みの日に来て下さいとも言えないですね。以前お世話になった池田先生が昨年はスタッフとして参加されていたので、子どもは先生と話をするのを楽しみにしていたが、今年は池田先生がみえなくてとても残念がっていました。

・練習がしたかったです。
・練習の機会がもう少しあると良いと思いました。
・ボッチャ大会が始まるまで、子どもは知らない人が沢山いて不安で行きたがらなかったけど、会場に行ったら知り合いもいてボッチャも以前練習していたのを思い出して楽しくすごせました。
・とても良かったです
・久しぶりの再会などがあり、又イベントでの体験なども楽しんでいる様子でした。
・久しぶりのまっとつながろ祭でしたが、楽しんでいる方々の様子が見られてよかったデス。来年も開催されるといいですね。
・一般のチームと初戦で当たってしまい負けてしまいました。勝負の世界なので仕方ありませんが一般は一般の枠で試合を進めて頂けると…と思いました。
・初めての参加で各事業所、それぞれに楽しんでいたと思う。
・遊びコーナーがいろいろ企画してあり、楽しかったのだがそれぞれのブース同士の間が狭すぎて、並ぶのも大変であった。また１つ離れていたため分かりづらかった。キックベースと一緒にコート側にあったらよかったのでは…。企画ともに、実行委員の方々お疲れ様でした。
・障がい者施設同士、一般は一般同士の対戦にした方が良かったと感じる。
・準備から進行、片付けまでご尽力くださった方々に感謝申し上げます。来年も是非開催して頂きたいです。
・色々な方とのふれあいが出来たこと。

ボッチャ大会アンケート（ボランティア）　2022.11.23

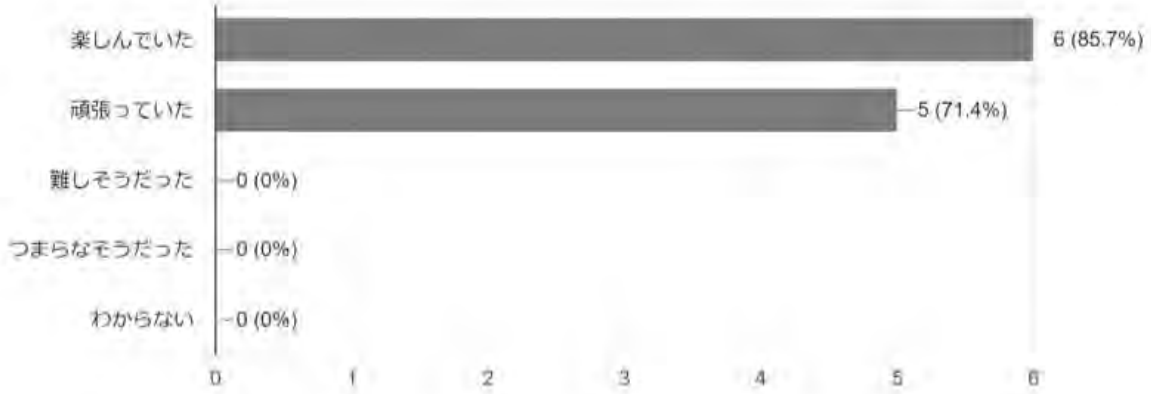
Ⅰ．ボッチャ大会について

1．出場した選手の様子を見て、当てはまる番号をチェックしてください。（複数回答可）



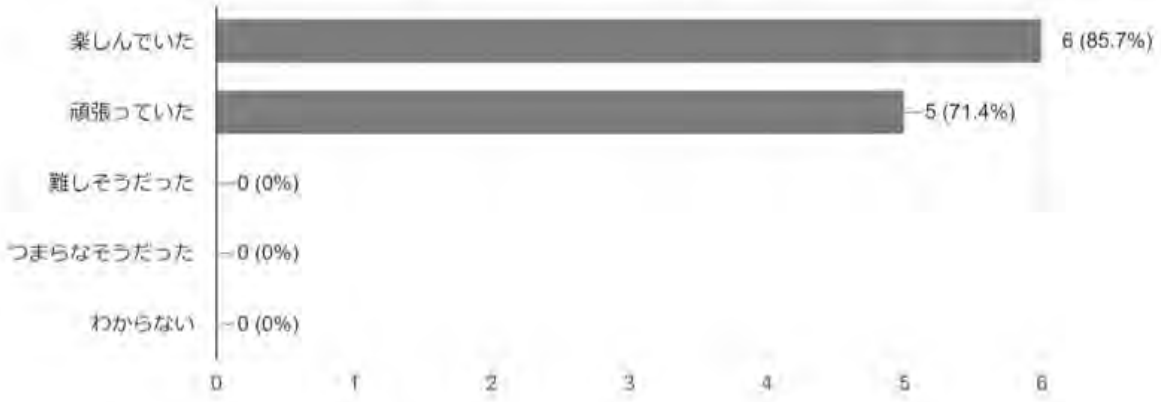
Ⅰ．ボッチャ大会について

1．出場した選手の様子を見て、当てはまる番号をチェックしてください。（複数回答可）



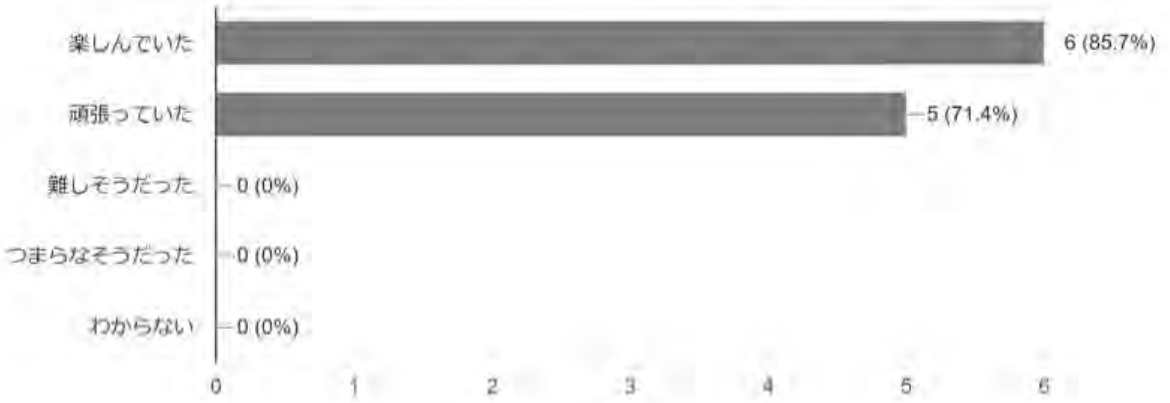
Ⅰ．ボッチャ大会について

1．出場した選手の様子を見て、当てはまる番号をチェックしてください。（複数回答可）



Ⅰ．ボッチャ大会について

1．出場した選手の様子を見て、当てはまる番号をチェックしてください。（複数回答可）



Ⅲ．自由記述　今回の大会に参加して気づいたこと・良かったこと、事業に関するご意見等、ご自由にお書きください

・みなさんの笑顔が素敵でした

・障がい関係なくボッチャという競技ができることがすごくいいなと思いました。

・人と繋がれる機会、場所があることが凄く素敵なことで、必要なことだと感じた。

・参加選手のお互いの応援や観戦のし合いに感動し、まわりの人たちの温かい声援や接し方が学びとなりました。

・こういう機会をどんどん宣伝していきたいなと思いました。

・ボッチャというスポーツについて知る事が出来ました。また、今まで教科書や先生の話でしか知らなかった事を自分の目で見ることもできました。

・障がいの有無や年齢など関係なく出来るスポーツで、そこがボッチャのいいところだと思いました。休憩時間に私たちも体験してみたのですが、力の強さや上手さだけではなく、チームで作戦を立てて勝ちにいくというところも他のスポーツではみられない面白い点だと思いました。

Ⅲ. 視察研修

（1）一般社団法人みやこいち福祉会「ジョイアスクールつなぎ」

〒630-8141 奈良市南京終町 3－540－5　Tel. 0742－50－09880

<日時> 2022 年 11 月 7 日（月）

<参加者> 小川純子（金城学院大学・桜花大学非常勤講師、元愛知県立特別支援学校校長）
志村美和（NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR 理事長）
田中良三（愛知県立大学名誉教授・見晴台学園大学学長、視察研修責任者）

<研修内容>

10 時 00 分　視察先（ジョイアスクールつなぎ）着
午前の活動
12 時 00 分　<昼食・休憩>
13 時 00 分　午後の活動
15 時 00 分　校長・教員との懇談会
16 時 00 分　視察先発

＜11 月 6 日(日)＞

12:30 名古屋駅新幹線口集合
12:47 名古屋発（JR 新幹線のぞみ 27 号　博多行）
13:21 京都着
13:37 京都発（JR みやこ路快速・奈良行き）
14:18 JR 奈良着
（宿泊先）天然温泉　飛鳥の湯　スーパーホテル LohasJR 奈良駅

＜11 月 7 日(月)＞

9:00 ホテルロビー集合・出発
9:40 視察先着
↓
16:00 視察先出発
18:00 名古屋駅着・解散

視察研修報告書 名前　（小川　純子） 提出日（令和 5 年 1 月 20 日）	
視察日	令和 4 年 11 月 6 日　～　11 月 7 日
訪問先	福祉型専攻科ジョイアススクールつなぎ
住所	奈良市南京終町 7 丁目 540-5
視察日程	9：30～11：30　施設概要説明、施設内見学 11：30～13：00　つながりカフェで昼食 13：00～15：00　パワーポイントによる施設の取り組み、紹介
対応者	奈良ジョイアススクールつなぎ代表　阪東　俊忠　事務局長

視察内容	○奈良ジョイアススクールつなぎ ・施設内の見学 ・「福祉型専攻科ジョイアススクールつなぎ」の説明（PPT 視聴） ○相談支援事業所とびら ・相談支援事業所、児童発達支援、放課後デイ等の見学 ○つながりかふぇ ・「ジョイアススクールつなぎ」(奈良市、阪東俊忠代表)が経営する「つながりかふぇ」で昼食、及び学生の実習の見学 ・店内の作品見学
学んだこと	・18 歳から先の人生の方がずっと長いという当たり前の事を踏まえて、先のことを考えるには「自分でたっぷりと考える時間が必要である。」ということ。ゆっくりと、丁寧に学びを進めていくことが必要な子どもたちはたくさんいるということ。 ・待ってもらえるという安心感があれば、「自己評価」もきちんとできるようになっていくということ。簡単につぶれない人格を形成していくという大事な学びを行っているということ。 ・「あきれるほど待つ」ことの大切さ。ひょっとしたら、自分は、自分たちは待てない大人になっていたのではないかということ。
その他	・自分自身が長い間ずっと大切にしてきた言葉は「つなぐ」「問う」「自分事」である。この「ジョイアススクールつなぎ」はまさにその「つなぐ」という言葉を実践しているという印象であった。 ・ここで学んでいる学生たちは勿論のこと、職員の方たちの何と楽しそうなこと・・・楽しいから続けられること、好きだからやりたいと思うこと、そういうことを大事にしていける場所であるということを痛感した。

（2）名古屋市委託事業・障がい者青年学級「汽車ポッポ」(代表:河合賢治)

これまで公民館（生涯学習センターなど）において、障害者を対象に「障害者青年学級」や講座などを開催してきた自治体は、全国で東京都の市区と名古屋市（民間委託事業）だけです。今年度の県内視察研修先は、名古屋市の委託事業先として 38 年間にわたって取り組んできている「障がい者青年学級・汽車ぽっぽ」（毎月 1 回開催）です。

学校卒業後の障害者の「青年学級」とは何か、どんな活動をしているのか、彼らの学びの姿や、支援のあり方について、実際の活動に触れて学びます。

＜日　時＞　２０２２年１０月１６日（日）　９：３０～１２：３０
＜会　場＞　瑞穂生涯学習センター（名古屋市瑞穂区惣作町 2-27-3）
＜研修内容＞
　　9 時３０分　現地集合（名古屋市瑞穂生涯学習センター）
　　１０時００分　青年学級開始　活動内容：ボッチャ大会
　　１２時００分　青年学級終了
　　１２時００分　河合さん（「汽車ぽっぽ」代表）と懇談
　　１２時３０分　現地解散
＜参加者＞
　　林　ともみ　（本事業連携協議会副委員長）
　　福田致代　（本事業連携協議会委員、Happy kids 代表）
　　田中良三（本事業連携協議会委員・視察研修担当、愛知県立大学名誉教授）

＜視察先の基本情報＞

学校・事業所名	瑞穂青年学級
設置主体	ボランティア・サークル・汽車ポッポ
設置年月日	1982 年（昭和 57 年）4 月
定員数 現員数	なし 学級生 20 名　ボランティア 10 名
利用制度	障害者青年学級補助金（名古屋市）
ホームページ	フェイスブック　汽車ポッポ

沿革

1981 年　名古屋市瑞穂青年の家において「障がい者ボランティア養成講座」が開催され、修了生有志でボランティア・サークル・汽車ポッポを結成。知的障害者のお子さんを持つ会員から障がい者青年学級開設の要望があり、1982 年　瑞穂青年の家を拠点に「瑞穂青年学級」を開設。名古屋市教育委員会の委託青年学級制度を利用して、最初の 1 年は一般の青年学級で実績を積み、翌年より障害者青年学級の枠組みで委託を受ける。その後、制度が変わり、補助金制度に移行し補助金交付を受け、現在に至る。また、瑞穂青年の家閉鎖に伴い、活動拠点を瑞穂生涯学習センターに移し現在に至る。2012 年　長年の活動を評価され厚生労働大臣表彰を受ける。（これまでに名古屋市及び愛知県からそれぞれ感謝状、表彰状を受ける。）

趣旨・目的

知的障害者の体験学習により社会性を高め、障害者の自立と生活の充実を図る。また、一般の方々との交流を図り、障害者への理解を深める。

特徴

常に、企画⇒運営⇒反省のサイクルを通して、充実し満足の得られる行事の確保を図る。企画、運営、反省の各場面に学級生が参加して自らの力を高めていく。年間行事計画は学級生の意見を聞きとり、反映させている。費用は学級生とボランティアは平等に分担している。

課題

１．コロナ禍での行事対応
　Ｈ２～3 年、コロナ禍で行事を自粛しており、対面行事ができない。学級生と会えない。H4 は、半日に制限しているが中止はなし。
２．学級生の退会
　会員家族の高齢化で会員の行事の送り出しが困難となり退会する学級生が出ている。
３．青年学級活動の周知不足
　青年学級活動が周知されてないため、新会員及びボランティア減少に影響している。
４．青年学級開設要件の負担
　名古屋市の補助金要件の内、３４歳以下の障がい者８名以上が負担になっている。発足当初の青年学級という名称にこだわり、本来、障がい者の生涯学習という観点から鑑みれば、年齢制限を撤廃すべきところ、担当部署が教育委員会から移管された際に現在の子ども青少年局が担当となったため、年齢制限が維持されている。

＜課題の解決に向けて＞

１．「おうちで青年学級」と称し自宅で可能な活動を企画した。
　コロナ感染対策のガイドラインを検討して安心・安全な対面行事再開を目指す。
２及び３．障害者青年学級の周知
　青年学級が紹介のために作成したパンフレットを、名古屋市子ども青少年局が編集・印刷して特別支援学校/特別支援学級の卒業生に対して配布した。これを見た生徒が入会した。
３．「障がい者ボランティア体験講座」の開設
　瑞穂生涯学習センターの自主学習グループ開設講座への開設(今年度は 11 名の参加予定)
４．行政側への意見申し入れを検討中。

視察研修報告書

名前　（福田　致代）
提出日　（2022 年　11 月 23 日）

視察日	令和４年１０月１６日
訪問先	障がい者　青年学級　「汽車ポッポ」
住所	瑞穂区惣作町　「瑞穂生涯学習センター」
視察日程	10：00…集合（検温、健康チェックシート確認、消毒） 10：10…ハロウィンランタン作り 11：00…休憩 11：10…ハロウィン・クイズ 11：30…ハロウィン・レク 12：00…終了、片付け ※ランタン作りの時間が延長し、ハロウィン・クイズで盛り上がったためハロウィン・レクは中止となった
対応者	サークル　「汽車ポッポ」　代表　河合賢治　さん
視察内容	・参加者 24 名（スタッフ含む）を 4 つの班に分けて、ハロウィンランタンを作った。（班にはスタッフが班長として入る）リーダーがランタンの完成品を見せ手順を説明してから工作がスタート。私も 2 班に入れてもらい参加した。 ・事前のお便りではさみとボンドを持参することになっていたが、忘れ物をした学級生に道具の貸し借りをしたり、和やかな雰囲気。私もボンドを貸してもらったり、学級生の工作を手伝ったりした。 ・参加している学級生は居心地の良い場所だと感じていて、ハロウィンの工作やクイズを楽しみ、お互いに冗談を言ったりしながら 2 時間楽しく過ごしていた。皆さんが満足した気持ち、今日も参加できて嬉しかったと笑顔で帰って行かれた。
学んだこと	・毎月 1 回、青年学級を実施していて、初詣やバス旅行などのお出かけ、ハロウィンやクリスマス会など季節のイベント、工作やリクレーションとプログラムがとても魅力的である。 ・プログラムは、学級生から要望を聞き（これは大切！）、毎年必ず新しいプログラムを入れているそうで、その分ボランティアの皆さんのご苦労もあるかとは思うが、時間と労力をかけて行うことで学級生は楽しんで参加し、生活の一部になっている。 ・スタッフの皆さんは、行事の企画、準備、お便り出しなど毎週定例会議を行い、そこに一部の学級生も参加しているそうで、意見を言ったり、準備やお便り出しなどに関わることでお互いに助けあいながら活動し学級生は学校を卒業してからも（障がいがあっても）このような学びの場があることで社会人として成長することができるというのが本当に素晴らしい！
その他	「汽車ポッポ」は障がい者ボランティア講座を受講した有志がボランティア活動を目的として結成され、40 年もの長い年月活動されている素晴らしいサークルで、代表の河合さんは「活動の原動力は彼らの喜ぶ姿です」とお話しされていたことに心打たれました。「汽車ポッポ」は青年学級と並行して障がい者ボランティア養成講座も開いている。障がい者理解を深めるためにも瀬戸市でも養成講座を開催して欲しいと強く思う。

「ボランティアサークル汽車ポッポ」視察研修

連携協議会副委員長・事務局　　林ともみ

令和 4 年 10 月 16 日（日）にボランティアサークル汽車ポッポの皆さんが活動している名古屋市瑞穂生涯学習センターへ視察研修に行かせていただきました。重度知的障害の娘も同行させていただいたので、視察というより、しっかり参加させていただきました。ハロウィンが近いということで、10 月は「ハロウィンランタン作り」「ハロウィンクイズ」でした。

まずはグループに分かれて画用紙と紙コップでランタン作り。仲間同士で教えあったり、ボランティアさんに手伝っていただいたりしながら、素敵なランタンが完成。紙コップの中に LED ライトを入れ、部屋の灯りを消してみんなで完成したランタンを眺めました。

その後はハロウィンクイズで盛り上がり、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。この日の会費は 200 円（材料費・保険代）で、素敵な自作のランタンと材料、お土産までいただきました。

終了後に代表の河合憲治さんにお話を伺いました。名古屋市から委託を受け、知的障害者の瑞穂青年学級を運営する汽車ポッポは創立 40 周年。

10 名のボランティアさんが関わり、毎週打ち合わせを行ない、毎月お便りを発行しているそうです。現在はほぼ午前中の活動ですが、コロナ前まではお昼をはさんで 1 日活動していたそうです。でも、皆さん、大満足の様子でした。

代表・河合賢治さん

娘は工作には興味はなかったようですが、皆さんに話しかけていただき、とても楽しそうでした。仲間と時間を共有し、雰囲気を楽しむことって「できる」「できない」以上に大切なことだと改めて思いました。この委託事業が終わったら、どうすればいいのかと不安な気持ちがありましたが、今回参加させていただき、「自分たちでも何かできるかもしれない」と少し光が見えた気がしました。ありがとうございました。

５．コンファレンス事業

Ⅰ　コンファレンス

Ⅱ　アンケート調査

地域共生社会をめざす

障害者の生涯学習支援コンファレンス in 瀬戸

【日時】 令和５年　１月14日　土曜日

13：00開会（12：30開場）

【場所】 瀬戸蔵　多目的ホール

瀬戸市蔵所町1番地の1

※施設有料駐車場はございますが、なるべく公共交通機関をご利用ください。

対面およびオンライン（YouTube 配信）による
ハイブリット形式で開催します

申し込み方法　右 QR コードより
電子申請システムにて申し込み
締め切り：1/9（月・祝）まで

<事務局>　NPO 法人杏 / 瀬戸市まちづくり協働課 / 瀬戸市教育委員会

TEL：0561－88－2802　FAX：0561－97－1332

主催：NPO 法人杏／瀬戸市／瀬戸市教育委員会／文部科学省

協力：瀬戸市立瀬戸特別支援学校／愛知県立瀬戸つばき特別支援学校
瀬戸市特別支援教育研究会／犬山市教育委員会

Ⅰ．コンファレンス

プログラム

<総合司会＞　林ともみ（連携協議会副委員長）

13:00　開会式

あいさつ　相馬貴久（NPO 法人杏 理事長）

伊藤保德（瀬戸市長）

13:10. 趣旨説明　鈴木規子（文部科学省障害者学習支援推進室長）

13:30. 成果報告と検討

1. 犬山市における新たな公民館講座の展開～新たな”であい・ふれあい・まなびあい”に向けて～　中島邦彦（犬山市教育部文化スポーツ課文化会館・南部公民館 統括主査）

2.「障害者生涯学習連続講座」　羽間 弘美（瀬戸市教育委員会指導主事）

3. ボッチャ大会」　川地 里香（瀬戸市まちづくり協働課主任）

4. 総評　小川純子（金城学院大学等非常勤講師）

14:20　<休憩＞

14:30　座談会「地域共生社会を目指すこんなことに取り組みたい」

＜コーディネーター＞　田中良三（愛知県立大学名誉教授）

＜話題提供＞

・加藤由美子(NPO 法人るんるん保育所「善毎」園長・元瀬戸市発達支援室長)

・牧 治　（瀬戸市立瀬戸特別支援学校　地域学校協働本部長）

・池田有希　（瀬戸市立效範小学校教務主任・元瀬戸市教育委員会指導主事）

・加藤和守　（瀬戸市公民館協議会会長）

16:00　閉会

成果報告と検討

＜司会＞　林ともみ（連携協議会副委員長）

1. 「犬山市における新たな公民館講座の展開～新たな”であい・ふれあい・まなびあい”に向けて～」

中島邦彦（犬山市教育部文化スポーツ課文化会館・南部公民館 統括主査）

2.「障害者生涯学習連続講座」

羽間 弘美（瀬戸市教育委員会指導主事）

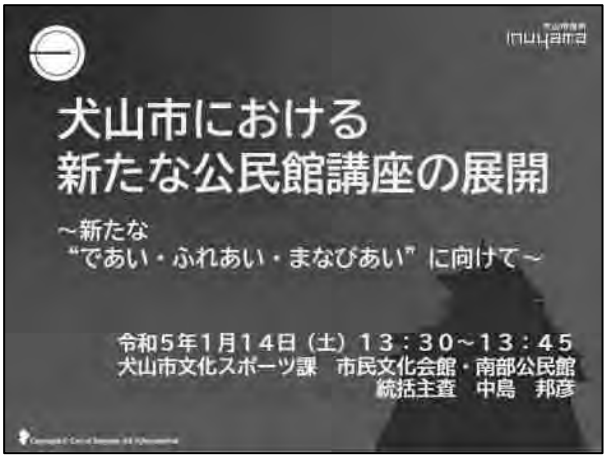
3. 「ボッチャ大会」

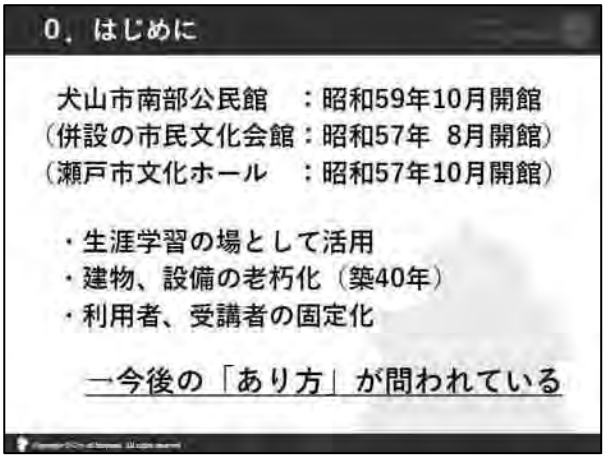
川地 里香（瀬戸市まちづくり協働課主任）

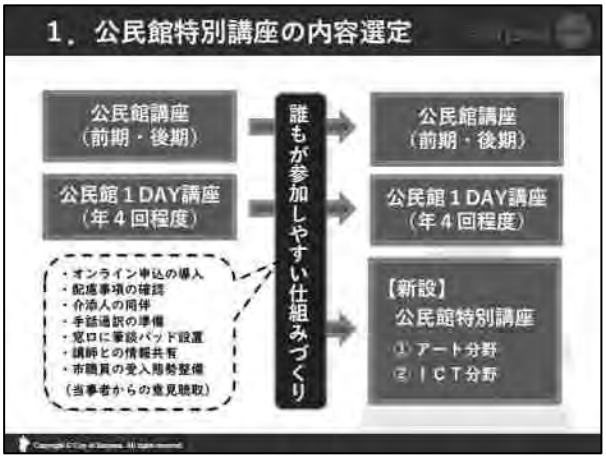
（総評）　小川純子（金城学院大学等非常勤講師）

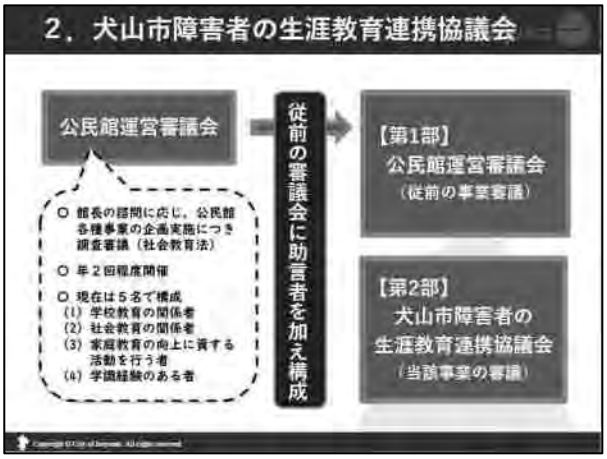
犬山市の取り組み

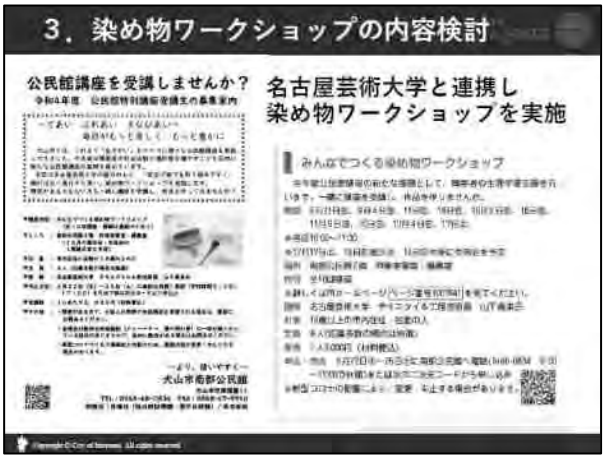
犬山市における新たな公民館講座の展開

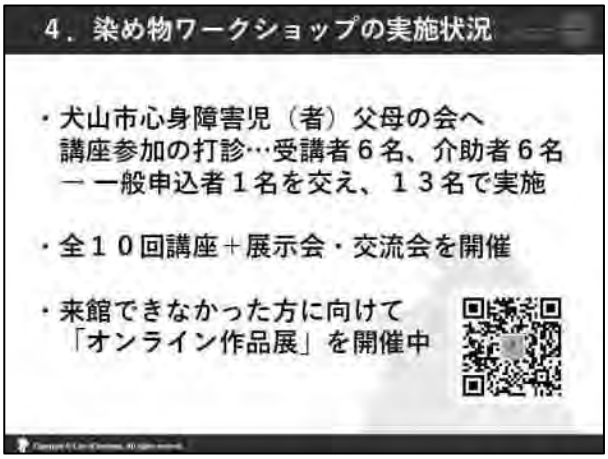


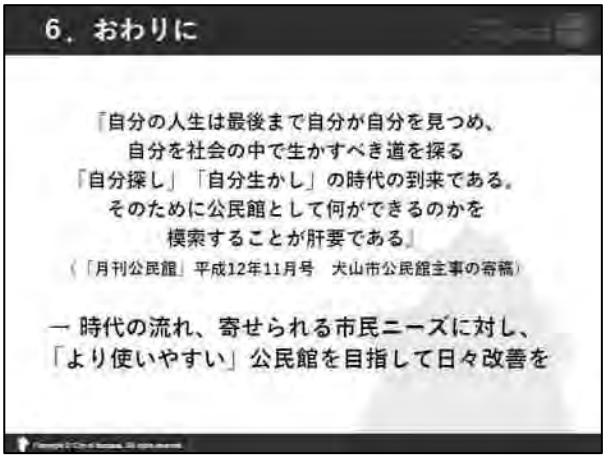






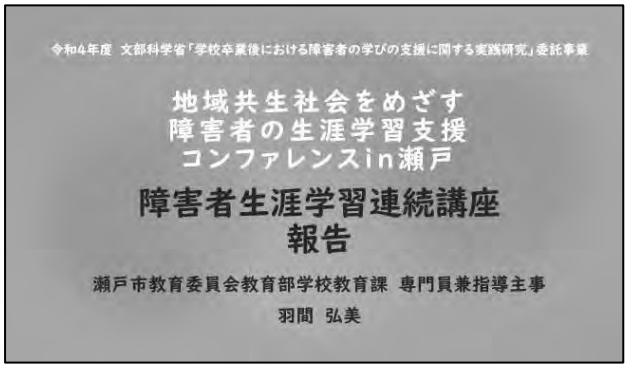


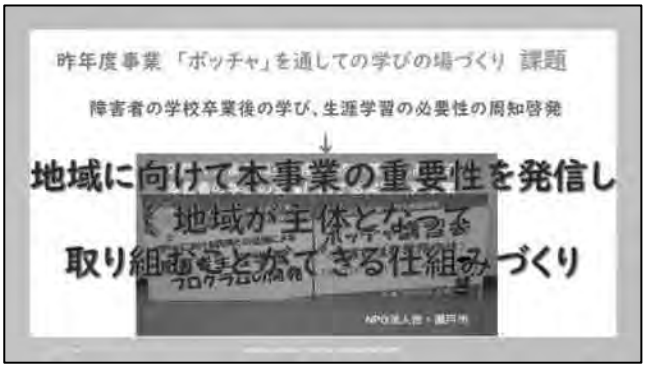




瀬戸市の取り組み

障害者生涯学習連続講座





障害者生涯学習連続講座
ライフステージ
実地見学
グループワーク
コーディネーターの配置

プログラム

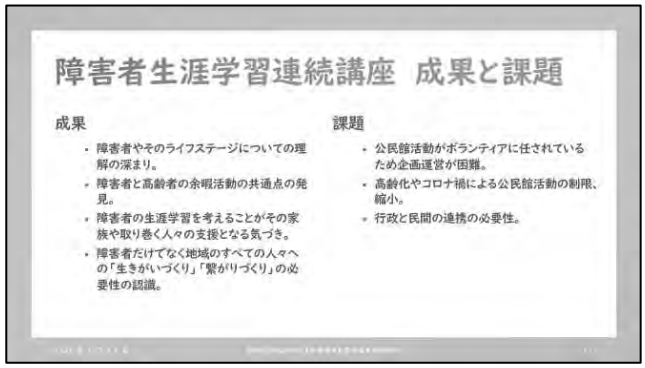
第1回 障害者福祉
6月24日（金） 場所：梅原公民館
「本事業と連続講座について」
田中 良三（愛知県立大学名誉教授）
「瀬戸市における障がい者福祉の実態と課題」
森 寛之（瀬戸市障がい者相談支援センター長

第2回
青年・成人期（卒業後）
司会：林 ともみ
（ラジオサンキューFM84.5パーソナリティ）
【参加者】公民館関係者5名、事務局8名
生き生きと遊びを楽しむ利用者の方々の様子にこちらが明るい気持ちにさせられました。ボッチャの練習にも励み、秋に行われるボッチャ大会への期待が伝わってきました。社会で活躍する障害者の姿に感動し、自己実現の道のりは、障害の有無にかかわらず、みな同じであることを感じました。
8月23日（火） 場所：NPO法人「杏」
「障がい者支援事業所の取組」
相馬 貴久（NPO法人杏理事長）

第3回
学校期（小・中・高）
【参加者】公民館関係者5名、事務局9名
地域コーディネーター2名
校訓「今を生きる」心の豊かさ、自分のできる力を最大限のばす学習に取り組みます。子どもの様子に感動させられました。地域コーディネーターの方の、参加もあり、学校が地域に果たす役割などについても活発な意見が出されました。ネットワークづくりの必要性と難しさを感じました。
10月19日（水）
場所：瀬戸市立瀬戸特別支援学校
「共生社会を見据えた
地域不自由特別支援学校の取組」
松川 博茂（瀬戸市立瀬戸特別支援学校校長）

第4回 乳幼児期
司会：加藤 由美子
（NPO法人るんるん保育所「善毎」園長）
【参加者】公民館関係者4名、事務局8名
障害があっても小さい体で思い切り走り回る園児たちを前に、健やかに成長してほしいと願わずにはいられませんでした。「お母さんを元気に、お母さんを笑顔にすることが、障害のある子ども健やかな成長につながるのならば、障害者家族が安心できる場の提供は必要不可欠であると感じました。
11月18日（金）
場所：瀬戸市児童発達支援センターのぞみ学園
「乳幼児における障害児発達支援について」
中島 史恵（瀬戸市児童発達センター長
兼のぞみ学園長）

第5回 まとめ
【参加者】公民館関係者8名、事務局8名
施設の整わない公民館に障害者を招くことは難しくても、障害者の作品を展示することで、理解の広がりを手助けできた事例や、防災講演で障害のある親子が参加された話などが紹介されました。また、地域が抱える高齢化についても話がかび、高齢者と幼い者がともに楽しむことができるボッチャについては、これからも人気が高まるであろうと期待の声が聞かれました。
瀬戸市は各地域に公民館が多くあるという利点を生かし、今後も障害者が地域との「繋がり」をもてるよう、そしてそのつながりの中で「生きがい」を探していけるような公民館の役割を模索していく方向性を確かめ合いました。
12月1日（木）
場所：梅原公民館
「障がい者生涯学習連続講座まとめ」
田中 良三（コーディネーター）


障害者生涯学習連続講座 成果と課題
成果
障害者やそのライフステージについての理解の深まり。
障害者と高齢者の余暇活動の共通点の発見。
障害者の生涯学習を考えることがその家族や取り巻く人々の支援となる気づき。
障害者だけでなく地域のすべての人々への「生きがいづくり」「繋がりづくり」の必要性の認識。
課題
公民館活動がボランティアに任されているため企画運営が困難。
高齢化やコロナ禍による公民館活動の制限、縮小。
行政と民間の連携の必要性。

ボッチャ大会

ボッチャ大会
瀬戸市役所まちづくり協働課 川地里香

ボッチャを柱として事業を推進
・7月23日(土) ボッチャ講習会
・11月23日(水・祝) ボッチャ大会

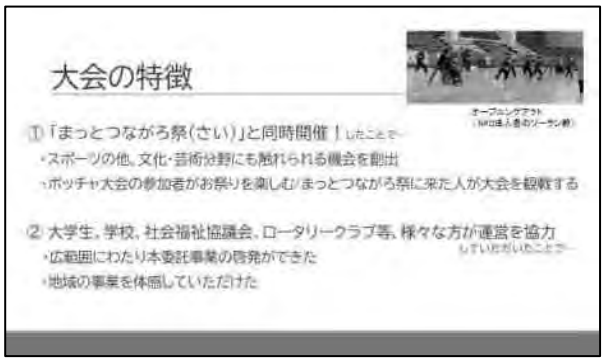
ボッチャ講習会
参加者39名
・公民館 から14 名、
・障害福祉事業所から 17 名 ほか
受付の様子

ボッチャ講習会
当日の流れ
ボッチャ講習会
ボッチャについてのお話
ボッチャにチャレンジ！

ボッチャ講習会
当日の様子
あいちボッチャ協会より
ルール説明

ボッチャ大会当日の様子(動画)
令和4年度 文部科学省委託事業
「瀬戸市における民間団体との協働による
障害者生涯学習プログラムの開発」
ボッチャ大会

ボッチャ大会を
「まっとつながろ祭」とコラボレーション
まっとつながろ祭とは…
・「地域の障害理解を深めること」と、「障害福祉事業所の様のつながり」を強めること」を
目的としたお祭り。
・障害福祉事業所の職員や市社会福祉課の職員等が協働で企画運営を行う。
今年度の様子→


大会の特徴
① 「まっとつながろ祭(さい)」と同時開催！
・スポーツの他、文化・芸術分野にも触れられる機会を創出
・ボッチャ大会の参加者がお祭りを楽しむ/まっとつながろ祭に来た人が大会を観戦する
② 大学生、学校、社会福祉協議会、ロータリークラブ等、様々な方が運営を協力
・広範囲にわたり本委託事業の啓発ができた
・地域の事業を体感していただけた

アンケートより

障害者本人

・今日のボッチャ大会で一番よかったことを書いてください。
→「ボッチャは頭を使うので大変でした」、「友達に会えた」、「次は1位を目指してがんばります！」

・休みの日に学んだり、体験してみたいことは何ですか？
→スポーツ、音楽、ダンス、ゲーム、料理やお菓子づくり、ハイキング…

アンケートより

支援者・保護者

・ボッチャ大会に向けて利用者の方やご本人に変化はありましたか？
→「友達に会えるのを楽しみにしていました。」、「日を数えて当日を待っていた」、「事前の練習から気合が入っていた」

・その他の意見
→「楽しみが多いと精神も安定するので、このような機会がたくさんあればいいなぁと思います。」、「ボッチャ大会が始まるまで、子どもは知らない人が沢山いて不安で行きたがらなかったけど、会場に行ったら知り合いもいてボッチャも以前練習していたのを思い出して楽しくすごせました。」

アンケートより

公民館

・ボッチャ講習会もしくは大会に参加した理由は何ですか？
→「公民館事業の中で取り入れていくために、経験者を増やしておきたいから」、「少しでも知りたいと思ったから」、「今後、地域で大会が開催される予定のため」

・公民館の生涯学習事業に障害者の視点を取り入れたことはありますか？
→「はい」0人、「いいえ」7人

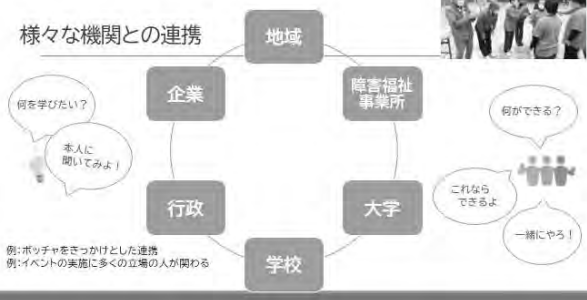
アンケートより

ボランティア

・自由記述
→「人と繋がれる機会、場所があることが凄く素敵なことで、必要なことだと感じた。」、「今まで教科書や先生の話でしか知らなかった事を自分の目で見ることもできました。」、「障がいに関係なくボッチャという競技ができることがすごくいいなと思いました。」、「こういう機会をどんどん宣伝していきたいなと思いました。」、「参加選手のお互いの応援や観戦のし合いに感動し、まわりの人たちの温かい声援や接し方が学びとなりました。」

これからについて

様々な機関との連携



例：ボッチャをきっかけとした連携
例：イベントの実施に多くの立場の人が関わる

インタビュー

ボッチャ大会に参加して

槇原啓太さんインタビュー
ボッチャ大会に出場した10チームの頂点に輝いたのは、NPO 法人杏でした。
杏のメンバー、槇原啓太さんに出場選手を代表してインタビューしました。
事業所では作業の休憩中に、
仲間といっぱい練習したそうで、
優勝がとっても嬉しかった様子の啓太さんでした。

司会・・・「ボッチャは好きですか？」
啓太さん・・・「・・・す、す、好きです」

この間が、好きな人に告白するような間で、何とも微笑ましかったです。

司会・・・「ボッチャ以外に何か好きなことはありますか？」
啓太さん・・・「サッカー、ダンス、太鼓がやりたいです」

司会・・・「休みの日は何をしていますか？」
啓太さん・・・「ダンス、太鼓、ゲームをやっています」

司会・・・「これからもっとやりたいことはありますか？」
啓太さん・・・「みんなでカラオケに行きたいです」

司会・・・「好きな歌はなんですか」
啓太さん・・・「ジャニーズの嵐」

好きなことがいっぱいあって、
参加できる場所がいっぱいあるとうれしいと、
力強く「楽しい」「うれしい」と
語ってくれました。

最後に「遊びも仕事もがんばりたいですね」
という司会の問いかけに、
「がんばります！」と
力強くこたえてくれました。

成果報告（コメント）

これからにつながる・つなげる生涯学習！！

小川　純子（金城学院大学等非常勤講師）

「令和４年度地域における障害者の生涯学習プログラム開発･推進コンファレンスin瀬戸」及び「犬山市障害者の生涯教育連携協議会」の成果として、1. 犬山市における公民館講座　２.「障害者生涯学習連続講座」　３.「ボッチャ大会」についての報告がありました。内容については、それぞれの成果報告に詳細にまとめられていますので、ここでは、キーワードとなる部分等について述べていきたいと思います。

（◎：成果報告の中からの抜き書き）

１　犬山市における公民館講座の展開　～新たな”であい・ふれあい・まなびあい”に向けて～

◎様々な声を頂きながら公民館が今後果たすべき役割を考えていくきっかけとして活用したい。

◎誰もが生涯学習活動を持続できるよう、障害者も参加しやすい仕組みづくりを行い、内容を拡充していくことで、障害者の学ぶ機会の充実を図っていくもの

◎障害者の特性に合わせた講座内容を企画立案することや、受講生となる障害者のニーズを把握し、実際の受講に結び付けていく支援が必要。

◎障害がある、ないにかかわらず受講者本人の意見を交えながら講座の企画立案を行う。

●今年度の公民館講座の実施を踏まえ、障害のある当事者の方の意見を、具体的に「どういう場で」「どう聞き出し」「どう受け取って」形にしていくのか、ということが重要なのかと思います。ここで具体的な方策を考えていくことが重要となるのではないでしょうか。

２　障害者生涯学習連続講座　～公民館関係者とともに障がい者の生涯学習を考える試み～

◎第１回：障がい者福祉　「本事業と連続講座について」「瀬戸市における障がい者福祉の実態と課題」

◎第２回：青年・成人期（卒業後）　「障がい者支援事業所の取組」

◎第３回：学校期（小・中・高）　「共生社会を見据えた肢体不自由特別支援学校の取組」

◎第４回：乳幼児期　「乳幼児における障害児発達支援について」

◎第５回：まとめ

●初めに「障害者生涯学習連続講座」という名称を聞いた時、ごく当たり前に「障害のある方」を対象とした連続講座と思い込んでいました。「障害のある方」を対象とした講座を行っていくために、理解者を増やすということだったのですか。

●この講座を実施し、障害についての理解が進み、成果と課題がきちんとまとめられています。次年度に向けて、どのような「講座」を「どのような人」を対象に行っていくのか、ということまで考えておくことが重要であると思います。障害のある方に向けての学びの講座を計画していただくことは可能でしょうか。

３　ボッチャ大会 2022

◎アンケートの実施においても事務局スタッフが参加者へ直接聞き取りを行う工夫をしました。これにより、参加者本人からの声を直接聞くことができ、また、本事業の目的やアンケート項目の意図などを伝えることができました。

◎「地域の障害理解を深めること」と、「障害福祉事業所の横のつながりを強めること」を主な目的に 2018 年度（平成 30 年度）から始まった瀬戸市障害者地域自立支援協議会が主催する「まっとつながろ祭（さい)」と連動して実施しました。

◎今回実施したボッチャ大会は、様々な立場の方に関わっていただくことができ、参加者の数字として目に見える成果以上に、来場した多くの方にもこうした取り組みを知っていただくことができた大変意義のある大会になりました。

◎障害者の生涯学習の機会拡大・促進は、ボッチャに限らず様々な機会において、障害のあるなしに関わらず誰もが広く参加できる生涯学習の場を創出していくことが大切です。本事業に参加・参画いただいた方々が、それぞれの立場やコミュニティにおいて、この経験を通して得たことを活かしていただけることを願います。そして、障害者が学校卒業後、障害福祉事業所等と自宅の行き来だけでなく、地域に開かれた様々な場所での「学び」が生活の一部となる社会を実現していきたいと考えます。

●「まっとつながろ」なんて素敵な言葉かと思いました。そうです。つながりましょう。つなげましょう。いろいろな立場や考えがあると思います。が、その垣根を超えて繋がっていくことの重要性を改めて痛感します。では、どのようにしたらつながっていけるのでしょうか。

４　私、障害者の生涯学習始めました！！

このタイトルは決してふざけているのでありません。私は昭和 53 年に愛知県立一宮養護学校に、養護・訓練担当（言語訓練）として赴任しました。養護学校義務制の１年前でした。それから 38 年間、つらいこと、哀しいこと、たいへんだと思うことは山ほどありました。が、楽しかった！！ありがとう！！と言って退職できたこと、本当に嬉しいことだと思っています。が、当時の特殊教育を学び始めてから 50 年。最近は、自分が体験してきたこと、経験してきたことが歴史になっているのだと、自覚しています。

だからこそ、伝えていきたい、伝えねばならぬ、そして、つながっていこうと強く思うものであります。

『「生涯学習」は、「人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行う学習」という定義（昭和 56 年の中央教育審議会答申「生涯教育について」より）が広く用いられています。』と、ありましたが、初任者となった当時はなかなか「生涯学習」ということに気持ちが向くような状況にはなく、目の前の事を必死で学び、子どもに向き合っていたと思います。が、「生涯学習」ということばそのものではありませんが、高等部の生徒の進路に関して、ふと、どうして、この子供たちの卒業後の進路が「一般就労」「福祉的就労」なのだろうかと強く疑問に思ったことがありました。「学ぶ」という言葉から考えれば、就労しても勿論、学びは途切れません。むしろ学び続けるのでしょう。が、就労という進路以外にはなかなか進路先を選択することが難しい子どもたちでした。特に知的障害の特別支援学校においては・・・　先輩に伺ったことがありました。「どうして進路として、就労あるいは入所となるのでしょうか。」その先輩は答えてくださいました。「社会が習熟していないから。」20 年以上も前の事です。当時は知りませんでしたが、そのときには、すでに文部科学省の中に生涯学習局を設置し、生涯学習を推進していたのです。が、障害のある人の生涯学習という観点があったのかということには大きな疑問がありました。また、公の場所で教員という仕事をしている自分にはとても難しい課題であると思っていました。

『障害者の生涯学習の推進については，「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について（依頼）」（平成 29 年４月７日 29 文科生第 13 号）により，各教育委員会等に対し，「特別支援教育の生涯学習化に向けて」と題する当時の松野文部科学大臣メッセージについて周知するとともに，文部科学省との連携協力により，障害者の生涯を通じた多様な学習活動を支援する観点からの取組の充実を依頼し，各教育委員会等における取組を進めていただいているところです。』とありましたが、特別支援学校を退職し、右も左も分からない大学で四苦八苦している自分には、まったくと言って入ってきてはいない情報でした。が、この頃、この委員会に参加させていただき、改めて、この施策の重要性を認識したのでした。

その後の流れについては、長くなりますのでここでは省かせていただきますが、私とっては、本当に「私、障害者の生涯学習始めました！！」という状況なのです。まだまだ私の学びもつきません。

５　大事なこと　～つなぐ～

○一人一人の人（点）が繋がって、線になり、線と線が繋がって面になります。面になれなければ、子どもたちがこぼれていくのではないでしょうか。

○つながりましょう。相談しましょう。話してみましょう。一緒に学びましょう。子どもたちの一生がどこかで途切れて良いわけはありません。

座談会

“地域共生社会を目指すこんなことに取り組みたい”

コーディネーター

田中良三（愛知県立大学名誉教授）

話題提供

加藤由美子

（NPO 法人るんるん保育所「善毎」園長・元瀬戸市発達支援室長）

牧 治　（瀬戸市立瀬戸特別支援学校　地域学校協働本部長）

池田有希（瀬戸市效範小学校教務主任・元瀬戸市教育委員会指導主事）

加藤和守（瀬戸市公民館協議会会長）

趣旨

座談会では、NPO 法人るんるん保育所「善毎」園長(元瀬戸市発達支援室長)の加藤由美子さん、瀬戸市立瀬戸特別支援学校(さくらんぼ学園)・地域学校協働本部長の牧 治さん、瀬戸市效範小学校教務主任(元瀬戸市教育委員会指導主事)の池田有希さん、瀬戸市公民館協議会会長の加藤和守さんの 4 人の方に登場していただき、テーマ「地域共生社会を目指すこんなことに取り組みたい」について、それぞれの立場から自由にお話ししていただきます。

加藤由美子さんには、長年にわたり、主に幼児期の障害児の保育・療育に関わっておられる立場からお話しいただきます。

牧さんには、子どもさんが特別支援学校で学ばれ、学校と保護者や地域との協働に取り組んでおられる立場からお話しいただきます。

池田さんには、瀬戸市の特別支援教育（障害児教育）や地域の学校で取り組んでおられる立場からお話しいただきます。

加藤和守さんには、地域の公民館での社会教育・生涯学習に取り組んでおられる立場からお話しいただきます。

みなさんにそれぞれ 15 分間話していただき、その後、会場のみなさんからご質問をいただきます。また私からも質問させていただきます。その後、質問に該当する登場者のみなさんにお答えいただきます。
最後に、私から少々お時間をいただいてまとめをさせていただきます。

この座談会では、文部科学省の実践研究委託事業終了後を見越しながら、今後、瀬戸市において学校卒業後の障害者の文化・芸術、スポーツ、教養など生涯にわたる学び支援にどう取り組んでいったら良いのか、それぞれの立場から自由にご意見をいただき、ご参加いただいた皆さんと共に考えていきたいと思います。

（コーディネーター　田中良三）

地域共生社会を目指すこんなことに取り組みたい

―まっとまっとつながって、まっと楽しく生きるために―

加藤由美子（NPO 法人るんるん保育所「善毎」）

1．　はじめに

瀬戸市職員として長年保育にかかわり、その中で子どもたちや保護者の皆さんと出会い、培ってきた願いをこの場で伝えられることに感謝したいと思います。

女性は、自分の子どもを産むという人生の一大イベントを通して、母親になり、我が子を幸せにと願います。

「泣いてくれるかな？手足はちゃんとあるかしら？」と無事に産まれるとすぐにもういろいろなことを想像し思いをめぐらし、男性（父親）もまた同じように無事産まれることを願い、子どもの成長に期待をよせ幸せにと祈っています。いざ我が子と対面すると無事産まれてきたことに安堵しますが、今度は期待と不安が交差しながらの子育てです。子どもの成長とともに少しでも発達がゆっくりであれば、うまく生きていけるかと心配し、歩けることや言葉を覚えることなど次から次に両親の思いは果てしなく広がっていくものです。子どもの健診で少し発達に遅れがあるかも？言葉が出ない。歩かない。視線が合わない・・・・・・

我が子はこの先どうなることかと先が見えなくなる不安

なぜ家（うち）にこんなことが起きたのか

他人ごとだったらよかったのに

そんな不安を抱えながらの子育てが、子どもたちにとってふさわしい環境にならないと瀬戸市では、早期発見・早期支援を念頭に保健師・保育士・教育機関の連携が必要といろいろな機関が縦と横のつながりを大切にしてきました。

2．　子どもたち主体の教育の時代

社会全体が、乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期と人の成長に合わせて縦と横のつながりが整いそれにそって安心して生活できるようになってきた

ものの、子どもたちは学校という居場所から離れることを前提に、社会に出てから困らないように、トラブルに出会わないようにと、早くからそのための準備しているのが現状です。

障がいが有るとか無いとかににかかわらず将来に向けて、ゆっくり自分らしく受容して、将来を描く時間が必要と強く感じたのは、数年前に見晴台学園を見学した時です。

瀬戸市には市立の「さくらんぼ学園」もでき、肢体不自由の子どもたちが小中高一貫校に遠距離で登校することもなくなりました。特別支援学校「瀬戸つばき」もあり、瀬戸市内の小中学校の支援級も充実しています。学校卒業後も障害者福祉事業所などなどに通うことができるようになっています。

それを目標にしているわけではありませんが、学業にだけ専念することや好きなことをより、学校という安全地帯が終了すると厳しい社会生活が待ち受けると、そのための準備が優先されがちです。

3．　人生を楽しむ

社会における人の営みは働くこともとても大切です・・・・・・・・・・
でも、働くことのみではなく、今、はやりのボッチカラオケ、ボッチキャンプとひとりを楽しむこともありますが、仲間と一緒に歓談し、ともに笑う時間を共有することが元気と活力を取り戻せると再認識したのは、昨年視察見学させてもらった町田市の青年学級の活動でした。

町田市の駅近くにある公民館へ日曜日の朝から夕方まで仲間と歌う、語る時には料理を作るなどのイベントもあり、参加者の皆さんの生き生きとしている姿を観て、本当に余暇を楽しみに待つことの大切さを感じました。

私も個人的に幼なじみの友人や以前の仕事の仲間とランチをしたり、旅行に出かけたり、好きな映画を観たり観劇に出かけたりします。もしも仕事以外の楽しみを失くしたら現状維持ができただろうかと思います。

4．　終わりに

誰もが学生時代が終わったら、ゆっくりと自分で好きなことが活かせる就労先を見つけ、余暇活動も楽しみながら自分らしく生きる。これは人が誰でも理想とすることでそんな安易にならないのが現実です。

たとえ、好きなことでの就労先でなくても、余暇を含めて老若男女問わず地域で安心して楽しく生活できることが、地域社会における課題です。

自分の住む地域で、選択することができる幅の広い楽しいことが見つけられ、自分らしさが発揮できたら、大げさな表現になりますが人生の最後まで地域社会とつながって生活できたら安心かつ幸せです。

他人に決められるのではない「自分で決める」選択ができる生き方がまっとうできることが、「生きる」って力になります。

自分の住む地域でそんな生活が営める活動ができ、誰もが、地域活動に無理せず参加することで、地域のいろいろな人たちと幅広くつながりを持ち、生活できるようにとなればとこの余暇活動推進支援という活動をさらに広められるようにと願っています。

障害児の生涯勉強環境の充実を

なぜ高等部を卒業すると社会人の選択しかないのか
見晴台学園を見学して目から鱗の落ちる思いがした

牧　オサム　（瀬戸市立瀬戸特別支援学校　地域学校協働本部長）

1.何の疑問もなく「卒業すれば社会人になるんだ」。と思っていた。

私の息子は今年3月に瀬戸特別支援学校(さくらんぼ学園)高等部を卒業しました。当然のように次の進路は生活介護、就労支援、就労移行などの福祉施設へ進むこととなり、晴れて「社会人」となりました。この一連の流れに私は何の疑問も感じませんでした。

2.見晴台学園の見学で目から鱗が落ちた。もっと勉強がしたい。

しかし昨年田中良三先生が理事長をされている見晴台学園の見学を機に、『健常の子は、この後大学進学、専門学校進学などまだまだ勉強する機会が選択できるのに、障害者というだけでその先の選択が無い』ことに気づいたのでした。

見晴台学園の学校案内に【「まだ学び足りない」「もっと学びたい」と大学など学びの場を求める若者が増えてきています。彼らの願いは「仕事が決まるまでの一時待機」や「就労のための訓練」ではなく、広く世の中を見、真実を知り、大事なことを見抜く力をつけ、自分らしく豊かな人生を生きるためにもっと学びたいというものです。】とありました。

まさに今までもやもやしていたことがここに書いてありました。健常児は、勉強はもとより、サークル、バイト、麻雀など人生勉強の時間を選択することができるのに・・・

3.ゆっくり、生きる喜びを勉強したい

また、見晴台学園には大学だけでなく、中等部、高等部もありました。高等部は5年制で、本科3年、専攻科2年となっています。

私が見学した高等部の授業はみんながパソコンを操り、東海道五十七次ウォーク(笑)というイベントをするために、地図や工程やその他いろいろのことを自分たちで作っている、という授業でした。みんなが生き生きと楽しそうにパソコンを上手に使っていました。みんながあまりにも上手にパソコンを使っているので、もともと得意な子が集まっているのかと尋ねたら、ここに来てからパソコンに触ったとの事。楽しく興味のあることなら、あっという間に得意になってしまう事を目の当たりにしました。

高等部の5年のうち、最初の3年が本科、卒業までの2年が専攻科です。障害者として生きていくためのスキルを身に着けるには、このくらいのゆっくりした時間が必要なのでしょう。そう感じました。

4.パソコン、スマホは障害者にとって神様からのプレゼント

私は教育者でないので、障害のある子供たちに対する学校の教育方針はわからないのですが、もっとももっと文明の利器を教えてやって欲しいと思います。歩けないから車いすを使って動く、と同じように、文字が書けない、ペンが持てない、ページがめくれない、本が重くて持てない人こそパソコンです。またこれからはスマホ1つあれば何でもできる世の中となるでしょう。連絡を取ること、コミュニケーションをとること、情報を得ることはもちろんのこと、買い物・支払いなどお金に関すること、家電操作、インフラ、など。スマホが自由に使えれば生きていける。いやいやスマホが自由に扱えれば今までよりもっと簡単に生きていくことができる、障害者にとってラッキーな時代がやって来たのではないでしょうか。

5.「夢のユーチューバー」は夢ではない

将来なりたい職業ランキングですが、1位サッカー・野球などスポーツ選手。2位ユーチューバー。3位医者。4位ゲーム制作関連・・・・となっています。いまだにユーチューバーが職業に値するのかと思われる方もいらっしゃるのではないでしょうか。遅れてますよ(笑)。彼らは冗談で言っているのではないです。本当に職業として成り立たせている人が多くおられるのです。

また世界では「e スポーツ」が注目されています。「e スポーツ」とはコンピューターゲームを使った競技のことです。例えばストリートファイターで競って勝つことで賞金を得るのです。これが職業として成り立っているとはとても思えませんね。遅れていますよ、あなた(笑)。

時代はどんどん進歩しています。いや、ハイテクによって障害者にとって生きやすい時代にどんどんなっていると思います。しかしそれに即した勉強はまるでありません。する機会すら得られません。したくても選択肢がありません。

ユーチューバーになることは実はすごく簡単なことなのです。スマホを持っており、動画が撮れ(撮ってもらい)、編集し(手伝ってもらい)、アップするだけ。見てくれる人が大勢いれば収入が入る。それだけです。

障害者にもってこいの職業と思いませんか。

6.障害者の生涯学習、生涯スポーツ

昨年度・今年度と文科省委託事業としてボッチャを取り上げてもらいましたこと、大変ありがたいことと感謝いたします。学校時代の幸せな時間を、卒業後にもと、望むべくもありません。しかし学習するにも、スポーツするにも、生きていくにも、あまりにも選択肢のない者が大勢いることを少しでも意識して頂ければと思います。

瀬戸市において「障害者の生涯学習プログラム」が開発され、障害者が人間らしく生きていける町となりますよう祈念致します。

ありがとうございました。

生涯にわたり、様々な学びの形が必要

池田　有希（瀬戸市立效範小学校　教務主任）

１．はじめに

私は、長年、中学校の特別支援学級（主に知的障害）を担任し、昨年度まで市教育委員会で主に特別支援教育を担当する指導主事を務めました。現在は、小学校で教務主任をしています。障害者の生涯学習について、数年間、関わらせていただき、私なりに地域共生社会を目指し、取り組みたいことや考えたことについて述べたいと思います。

２．学校卒業後の卒業生との関わりから考えたこと

以前勤めていた中学校では、特別支援学級を卒業し、特別支援学校等や社会に出た 20 歳までの卒業生や携わった教師を学校に招いて OB 会（現：卒業生と語る会）を毎年開催しています。そこでは、様々な卒業生の話を聞くことができ、在校生はもちろん、保護者や教師にとって貴重な機会となっています。そこに参加して毎年感じることは、学校を卒業後、就労してから、生き生きと働き続けている卒業生は皆、学びを続け、自分なりに楽しみを見つけているということです。

小学校時代からマラソンを熱心に行っていた一般企業に就職した卒業生は、障害者向けの大会で優秀な成績をおさめ、社報で紹介されていました。また、中学校の授業で行った和太鼓を卒業してからも習い事として続けることができる体制を整えたことで、生き生きと生活できるようになった卒業生、毎年、一年間かけて描いた絵や撮影した写真を年賀状にして送ってくる卒業生もいます。つい先日出席したその会では、ピアノ演奏を披露した 20 歳の卒業生がいました。新しい曲を弾いてみたいか尋ねると、優しくわかりやすく教えてくれるなら教えてほしいとの回答がありました。また、好きな歌手をきっかけに韓国語を勉強していたり、仕事でパソコンの入力をしているので、エクセルを勉強していたりする卒業生の話も聞くことができました。

就労後に様々な悩みをかかえて、仕事が続けられなくなる危機を乗り越える力となるのも、趣味や人との関わり、学びだと考えます。私は、卒業生から近況報告や相談を受けることがあります。職場での悩みの多くは人間関係です。本研究事業として行ったボッチャ講習会に参加したり、好きなダンスに取り組んだり、体を動かすことで、働く力になった卒業生もいました。また、職場でこんな困ったことがあったけどどうしたらいい？一人暮らしがしてみたいけど、どんなことが必要？など、気軽に話ができる集いの場や青年学級も必要ではないでしょうか。障害のある人は、社会的障壁のせいで、どうしても活動範囲が狭くなってしまいます。様々な人と社会で関わりをもって生活することで、様々な考えに触れる機会が増え、生活が豊かになるのではないかと考えます。

文化・芸術、スポーツなど学びの形は様々です。学びたい人が、障壁を感じることなく、自由に学べる社会の仕組みが当たり前にある世の中になることを私は望みます。また、教師として、義務教育段階から、子どもの好きなことや得意なことを見つけて、そ

れを大切にして、生涯にわたって学び続けていくことができるような支援ができたらと考えます。学びは、学校で終わるのではなく、生涯にわたって学び続けていくことの大切さも伝えていきたいです。

３．学びたい人が当たり前に社会で学ぶことができるように

学びたい人が社会で学ぶことができるようにするためには、まずは障害のある人について知ることが必要だと考えました。関わった経験が乏しいため、思考が停止してしまうことが世の中に多々あります。地域での受け入れ体制を整える上で、始めに行う必要があり、2 年目の本実践研究事業では、公民館等社会教育施設の担当者等向けの「障がい者生涯学習連続講座」を行い、障害者について理解を促すことから行いました。

また、本校では、肢体不自由のある車椅子バスケットボールのチームを招いて、子供たちが実際に車椅子に乗ってバスケットボールを教わったり、視覚障害、肢体不自由、聴覚障害などのある当事者から、話を聞いたり、体験したりする実践的な授業を行いました。子供たちからは、特別な人だと思っていたが、違っていた。今後は手伝えることがあるか、自分から声をかけたい。どういうことに困るのかしっかり考えて行動したい。など、様々な意見や感想がありました。このような特別な授業もとても大切ですが、小さい頃から障害のある人もない人も、自然に関わり生活していくことが共生社会の一番の近道であると考えます。

４．学齢期の多様な学びについて

「令和の日本型学校教育」として、「個別最適化」という言葉があります。それは、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する。支援が必要な子供に、より重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現する。特性や学習進度等に応じ指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。とされています。これについては、まだできることがたくさんあると常々感じています。特別な支援が必要な子供の中には、ギフテッドのように能力が高すぎることによる辛さを抱えている場合もあります。また、皆と学習に取り組むことは苦手でも、型にはまらない、ものすごい力を秘めている子供もいます。好きなことならどんどん学びが進み、それを社会で発揮するために、自ら進んで学んだ結果、社会に出て必要な様々な力をつけるまでになった人もいます。読んだり書いたりすることは苦手でも、話すことに置き換えれば、他の子供より理解が進んでいたり、深い考えをもっていたりする場合もあります。そのような子供たちが学ぶことを諦めず、意欲的に学ぶことができるような学びの形も必要ではないかと考えます。

５．終わりに

地域共生社会の実現のために、私ができることをこれからも考え、実行できるように努力していきたいです。拙い文章を読んでくださり、ありがとうございました。

公民館における障害者の生涯学習に向けて

加藤　和守（瀬戸市公民館協議会会長）

１．瀬戸市の公民館

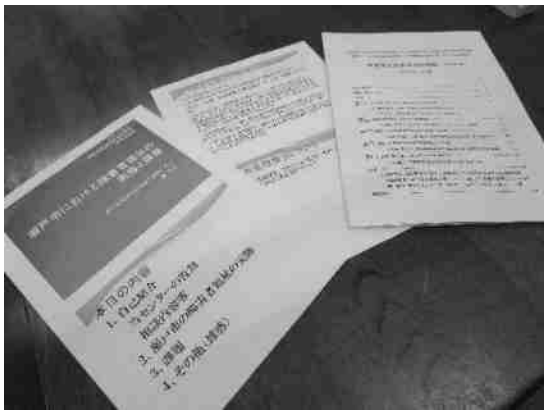
瀬戸市内には公民館が１４館（概ね小学校区に１館）設置されています。

館長の他に地域住民から選出された運営委員が主となり、住民のボランティアで様々な公民館活動を実施しています。

２．障害者生涯学習連続講座のへの参加

「障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業の１つとして、公民館関係者を対象として全５回の連続講座が開催され、６つの公民館から関係者が参加しました。

講座では、障害者を取り巻く状況について知る座学や、市内の特別支援学校や障害者福祉事業所等の現場を見学させていただく実学を通して、事業の趣旨や瀬戸市の障害児・者教育、福祉について学び、今後の障害者の生涯学習機会の拡大促進に向け基礎的な理解を深めました。



３．ボッチャ講習会

令和４年７月２３日(土)にＮＰＯ法人杏・瀬戸市の共催によるボッチャ講習会が開催され、４館の公民館関係者が参加しました。ボッチャを初めて経験するという人が半数ほどいましたが、説明を受けルールを理解し競技への参加を経験することによりボッチャの面白さを感じることができました。

また、これまで関わることのなかった障害者福祉事業所の方達との交流は、公民館で行う生涯学習事業にどのように障害者の視点を取り入れ、そして障害者の方達とどう関わっていくか、さらには、企画にあたっての課題などについて考える良い機会になりました。

４．今後の取り組みについて

瀬戸市内の一部の公民館はバリアフリーでないなど、ハード面での問題や課題などもありますが、障害の程度や内容などは様々であることから、まずは、障害者が参加できる機会を増やす取り組みから始めていきたいと考えています。

【公民館運営者の学び】

・障害者福祉事業所関係者や障害者団体の方を講師に招くなどして、公民館関係者を対象とした障害に対する基礎的な理解のための研修会等の機会を設ける。

【障害者も参加できる企画と実施】

・公民館を舞台に「やりたいこと」や「やってほしいこと」について就労施設等とミーティングを行い企画に取り入れる。
・地域の障害者福祉事業所や地区社協、地域団体との協力連携により、障害者の方も参加しやすい生涯学習講座を目指す。
・学区内外に関わらず、障害があっても参加したいと思ってもらえる、また地域の方とも交流できるような講座の企画を目指す。
・体を動かすことが困難になってきても楽しめる「ボッチャ講座」を実施する。

【広報・情報発信】

・障害の種類も千差万別であり、現在開講している講座で参加できるものもあるため、公民館の生涯学習講座の開講情報を障害のある方にも届くよう積極的に広報する。

★『地域共生社会をめざす障害者の生涯学習支援コンファレンス in 瀬戸プログラム集』より。

2. アンケート調査

参加者には、コンファレンスのアンケートへの協力をお願いした。対面、オンライン参加いずれの場合も資料とともにアンケート依頼（URL、QR コード付き）のプリントを配布し、スマホ・タブレット等で URL、QR コードを読み取って Web 上（Google Forms）で回答できるようにした。回答期間はコンファレンス開催日である 2023 年 1 月 14 日から 1 月 21 日までとした。

結果、オンライン参加 22 名、対面参加 31 名のうち、回答は 11 件（回収率 20.7%）。回収率が若干低かったことは残念であったが、寄せられた貴重な意見を今後の事業推進に活かしていきたい。

以下、アンケート結果の集計を掲載する。

【１】所属（選択式、単一回答）

	合計人数（%）
①学校（教職員等の関係者）	１（9.1）
②学校（生徒）	0
③大学（教職員等の関係者）	0
④大学（学生・大学院生）	0
⑤行政（社会教育・生涯学習・スポーツ・文化芸術）	４（36.4）
⑥行政（学校教育 ※関係機関含む）	0
⑦行政（保健・福祉・労働 ※関係機関含む）	１（9.1）
⑧行政（その他の部局）	0
⑨社会教育関係団体（※スポーツ・文化芸術団体を含む）	0
⑩社会福祉協議会	0
⑪教育委員会	0
⑫障害福祉サービス等事業所	１（9.1）
⑬当事者等団体（例．親の会や NPO 団体・一般社団法人）	１（9.1）
⑭保護者（所属なし）	１（9.1）
⑮社会教育施設（例．公民館）	0
⑯ウェルネスヨガ指導者	１（9.1）
⑰地域コーディネーター	１（9.1）
合計	１１

【２】あなたは、どのような立場で障害者の生涯学習活動に関わっていますか？（選択式、複数回答）

	合計人数（%）
①仕事として	６（54.4）
②ボランティアとして	２（18.2）
③参加者として	１（9.1）
④これまで関わったことがない	４（36.4）
合計	１３

【３】本コンファレンスは全体を通じて、今後障害者の生涯学習活動に取り組むにあたり、参考になる内容でしたか？（選択式、単一回答）

	合計人数（%）
①大変参考になった	７（63.6）
②参考になった	４（36.4）
③あまり参考にならなかった	０（０）
④参考にならなかった	０（０）
合計	１１

【４】本日のプログラム（成果報告及び座談会）について、ご感想・ご意見をお聞かせください。（自由記述、回答９件）

○　そもそも、障がいを持つ方への生涯学習を広めようとした活動があることを知らなかった身としては、経緯や取り組みの報告を聞かせていただき、大変良く分かり、参考になりました。

○　牧オサムさんのお話が心にささりました。
障がい者の方やご家族の生の声(レポートでも)をもっと聞きたかったです

○　障害者スポーツを活用した取組はとても良いと感じた。

○　異なる組織との連携が参考になりました。

○　ひとつひとつ､分かりやすい発表でした。
犬山市の実践報告は､立ち上げ段階の事をもっとお聞きしたかったです。

○　障がい者生涯学習連続講座の取り組みが素晴らしいと思いました。地域の方に抵抗感を無くしてもらうこと、支援者を養成することは必須だと思います

○　犬山市の染め物ワークショップは素晴らしい作品が出来上がっていた。10 回連続講座で長期間だったため参加された付き添いのご家族に負担はなかっただろうか？
しかし逆に期間が長い事で、お互いの交流が出来たかもしれない。参加した方の事後アンケートや感想などの発表があると良かったと思う。また犬山市の紹介(人口、公民館数)もあると良かった。
障がい者生涯学習連続講座で、実際に学校や事業所の見学をしたのが良かった。当事者の思いや願いを知るために事業所でのインタビューがあれば良かったのではないか？当事者の声を聞くことが大切だと思う。
座談会で中学校で卒業生を招いて OB 会があったという発表があった。学校と卒業生との関わりがあることは素晴らしい！ただ市内全ての中学校で実施されてないとの事で今後全ての中学で実施される事を期待する。
公民館での障がい者生涯学習の取り組みはこれからという事だが､出前講座で『やすらぎ会館』を利用し社会福祉協議会と連携するとか、今後瀬戸市において地域とつながり、障がい者の余暇活動が広がっていく事を期待している。

○　障害者の生涯学習の大切さをあらためて感じる事ができました。沢山の方に知っていただくことが必要かと思いました。継続して取り組んでいただきたいです。

○　今回、様々な立場の方から話をうかがい、障がい者の生涯学習支援を支えたい、支えてほしい

という双方からの思いが改めてわかりました。
あとは" つなぐ　"だけ。どのような形で自分の立場でつないでいけるかわかりませんが、恐れずに行動していきたいと思いました。

【５】その他、プログラム全体を通じてお気づきになったことがあれば、お聞かせください。（自由記述、回答６件）

○　いろいろな立場の方からの意見を聞くことができて良かった。
○　NPO 法人杏さんの活動に感銘を受けました。
○　座談会でお話しくださった先生方と、公民館協議会会長様との、実際的な温度差がとても気になりました。公民館を椅子ヨガ教室等で日常的に活用しておりますが、地域によって、運営される方々の高齢化…、これはボランティア活動に支えられているのが理由にあると思います。障がい者の活動に留まらず、母体となる公民館のバリアフリー化&若い方も運営できる働き方を行政と共に仕組み作りが必要だと思います。
○　成果報告後の小川先生の総評の時間が短く残念。もっと先生のお話が聞きたかった。
○　多くの方に聞いていただけるよう、オンデマンドで後日でも視聴できるといいなと思いました。
○　座談会はざっくばらんにお話を聞け、とてもよいと思いました。

【６】企画運営・会場設営（スタッフ・資料等を含む）について、ご感想・ご意見をお聞かせください。（自由記述、回答７件）

○　オンラインで手話通訳士の方が途中から一緒に映るようにしていたのが良かったです。音声も途中から聴きやすくなりました。ありがとうございました。
○　オンライン参加者にも資料を送付いただきありがとうございました。とても参考になりました。お疲れさまでした。
○　素晴らしい機会をありがとうございました。
○　資料集を郵送いただきありがとうございました。
zoom ではなく、YouTube 配信という手段を取った理由（メリット）を知りたいと思いました。
○　会場の広さもちょうど良くて、プロジェクターの動画も見やすかった。ともみさんの司会が良かった。スタッフの皆さん、お疲れ様でした。
○　座談会は皆様の本音が聞けてよかったです。
○　教育委員会、福祉課、公民館、障がい者の保護者の方など様々な立場の方から話を聞くことはそれぞれの考えを知るのにとてもよいことだと思いました。また、障がい者の方からお話を直接聞いてもよいと思いました。

【７】今後、本コンファレンスで取り上げて欲しいテーマ・課題をお聞かせください。（自由記述、回答５件）

○　ICT の活用、家庭内での生涯学習支援、を希望します。
○　その後の公民館活動について

○　障害者が選べる地域づくりの具体的な企画からのスタート。お母さんたちを支えるサークル活動開催。
○　今年度の実践や座談会をうけて、来年度どのような取り組みに反映させ、実践していったのかを知りたいです。また、見晴台学園大学に何度も言及されていたので、気になりました（自分で調べれば良いですね）。
○　事例紹介

【８】障害者の生涯学習の推進・学びの場づくりなどについて、今後、必要なことは何だと思いますか？（自由記述、回答９件）

○　生活介護で働く身としては、障がいを持つみなさんのサポートはできますが、ご本人が学びたい内容によっては専門分野外の為、力が及ばないことがほとんどです。生活介護の時間帯で生涯学習のさまざまな講師の方にお越しいただく事で、利用者さんの興味や経験が増やせるのであれば、ぜひ協力したいと考えました。私の地域の生涯学習に関わる方との接点を探してみようと思います。
○　車椅子インフルエンサーの人が言っていた「人の心がバリアフリーであることが生きやすい社会」
○　「障害者の」という冠が付かなくても良い「誰にとっても気軽にできる生涯学習」というのが当たり前の時代になるため、ICT の活用術の広がりがとても必要になってくると思います。本日はありがとうございました。
○　参加者の会場から住居まで行き帰りの手軽さが大事だと思います。
○　音楽療法とダンスなど、専門の講師による楽しい連組講座。五感の開発解放！
○　理解者、協力者をあつめること。
○　ボランティアの養成、当事者の希望を取り入れたプログラム、まずはやってみる事が大切だと思う。案ずるより産むが易しのことわざのように！
○　どんな学びの場があるといいか、多くの当事者や保護者に耳を傾けてもらえるといいなと思いました。
○　まずはお互いを知ることだと思います。

6. 総括　～課題意識の拡がり･二年目をふりかえって～

私たち NPO 法人杏は令和 3 年度に引き続き、令和 4 年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の、（1）地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究　（イ）地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進に応募し、「瀬戸市における民間団体との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」というテーマで採択された。下記の囲みは公募の際に文部科学省から示された(1)(イ)の事業内容である。下線部は前年度の内容からの変更箇所だが、そこにも意識を置きつつ、内容の柱①と⑤を軸に今年度の事業の成果を述べることとする。

> 市区町村が障害者の生涯学習支援に取り組むきっかけづくりを目的とし、民間団体等と組織的に連携して、主に公民館や生涯学習センター等の社会教育施設における、障害者本人のニーズや地域資源を踏まえた、ICT 等の活用や多様な体験活動を含む包摂的な生涯学習プログラムを開発･実施し、その成果を普及･活用するために、以下の事項について実践的な研究･開発等を行う。
> ①　効果的な生涯学習プログラムの開発･実施
> ②　連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局･民間団体等との連携体制の構築
> ③　コーディネーターの活動やボランティアの育成･活用等の方策
> ④　実践研究の成果等の普及
> ⑤　広域的な研究成果普及･人材育成等を目的とした共生社会コンファレンスの実施
> ※①～④を必須事項、⑤を選択事項とする。

① 効果的な生涯学習プログラムの開発・実施

参加層の拡がりに取り組んだ『ボッチャ講習会・ボッチャ大会』の実施

継続して取組んだボッチャ講習会(7 月)、ボッチャ大会(11 月) では以下のような拡がり、改良点が加味された。

1. 受託法人と瀬戸市主催のボッチャ大会が開催できた。
2. 「まっとつながろ祭」(瀬戸市障害者地域自立支援協議会主催)と連動してボッチャ大会を実施できた。
3. ボッチャ講習会･ボッチャ大会ともに市内の全障害者福祉事業所、公民館にチラシを配布して参加者を募集した結果、障害者の参加が増加したことに加えて公民館(競技)、瀬戸ロータリークラブ(協賛･競技)の参加が得られた。
4. 学習プログラムの運営補助に、瀬戸市区別支援学校コミュニティ･スクールの地域コーディネーターの協力と大学生ボランティアを活用できた。
5. ロンドンパラリンピックのボッチャ日本代表加藤啓太氏をゲストに招き、ボッチャ競技の技術のみならず、氏の姿や生き方から共生社会の好事例を学ぶことができた。

瀬戸市が「地域の障害理解を深めること」「障害福祉事業所の横のつながりを強めること」を

主目的として平成30年度から実施している「まっとつながろ祭」と連動した開催方法は、既知のイベントとのリンクによる間口の広がり、参加しやすさという効果をもたらした。今年度はコロナ禍のため福祉事業所のほとんどが展示参加のみであったが、対面参加が戻ってくればボッチャ大会もより盛況に実施することが期待できる。競技にのぞんだ障害者は、チームで作戦を相談しながらプレイしたり、励ましあい良い投球には手をたたいて喜びを発散するなどボッチャを主体的に楽しんでいた。そうした姿を公民館関係者やボランティアらと直接共有できたことが今後の生涯学習支援促進につながっていくものと確信した。

地域の障害理解・関心の拡がりに取り組んだ『障がい者生涯学習連続講座』

効果的な生涯学習プログラムの実施に必要な公民館関係者の障害理解の促進を目的とした連続講座が5回シリーズで実施された。地域の障害者の生活実態をライフステージごとに、障害児・者が実際に活動している現場に足を運んで見て学ぶ講座形式を委託事業の限られた日程で実現できたのは関係各方面の力強い協力に依る所が大きく、そのこと自体これまでの瀬戸市の障害者施策の充実を物語っているといえる。講座を通した学習から生涯学習支援の必要性について認識が深まったのと同時に、公民館の負担への不安など現実的な課題も見えてきた。委託事業終了後を見据えたときに、こうした公民館の抱える不安を私たち地域や民間も共有して少しずつでも環境や体制の整備のために連携していく下地づくりも本事業の課題である。

⑤　広域的な研究成果普及・人材育成等を目的とした共生社会コンファレンスの実施

前年度は同じく愛知県で委託事業を受けたNPO法人春日井子どもサポートKIDS COLOR・春日井市主催のコンファレンスに参加し成果報告を行ったが、今年度は瀬戸市単独で「地域共生社会をめざす障害者の生涯学習支援コンファレンスin瀬戸」を開催することができた。内容全般への感想を求めたアンケートに、「そもそも、障がいを持つ方への生涯学習を広めようとした活動があることを知らなかった身としては、経緯や取り組みの報告を聞かせていただき、大変良く分かり、参考になりました。」「障害者の生涯学習の大切さをあらためて感じる事ができました。沢山の方に知っていただくことが必要かと思いました。継続して取り組んでいただきたいです。」と寄せられたように、多くの人が障害者が地域で学び続けることができる生涯学習という考え方を持ち合わせていないという現実が出発点である。昨年度、今年度と少しずつ動き始めた成果や新しい価値観をコンファレンスをきっかけに発信したことにより「学校卒業後ももっと学びたい、学ばせたい」という意識の拡がりにつながっていくこと、多様なニーズや支援が本事業あるいはその後の取組にフィードバックすることを期待したい。また、アンケートにはICTの活用、家庭内での生涯学習支援を希望する意見も寄せられた。障害の程度に応じた学習環境や支援体制の整備など、「学びたい、学ばせたい」人のニーズにできる限り誠実に応えていくためにさらに具体的に何ができるのか、三年目の事業を受けることができたならこうした視点も加えて取組む姿勢が求められている。(事務局次長 藪　一之)

編集後記

本報告書は、市から派遣いただいたまちづくり協働課や教育委員会の職員など事務局メンバーが、各事業毎に、ご参加いただいた連携協議会委員や皆さんの姿やアンケートなどの声も収録し、生き生きとリアルに執筆していただいています。

この報告書とは別途に、『障害者生涯学習連続講座（2022 年度） プログラム集』を冊子として発行し（2022 年 6 月 24 日）、各講座内容と資料として文科省・有識者会議「報告書」を添付し、全 65 頁に編集しました。また、同様に、コンファレンスでは各成果報告の発表内容と座談会の内容を編集し、全 44 頁の冊子として発行（2023 年 1 月 14 日）しました。

本報告書とこれらの冊子を合わせて、令和 4 年度文部科学省委託の本事業の全体を捉えていただけるなら大変ありがたく思います。

（田中良三）

令和 4 年度文部科学省
「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
「瀬戸市における民間団体との協働による
障害者生涯学習プログラムの開発」報告集

発行日　2023 年 3 月 10 日
発行者　NPO 法人 杏

問い合わせ先 NPO 法人 杏
〒489-0005　瀬戸市中水野町 1 丁目 444
電話 0561-76-8004
E メール shogaishien-an@chic.ocn.ne.jp